



OKUWA REPORT 2023



オークワ
オリジナルキャラクター
クワミちゃん

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

経営理念・経営信条

「商業を通じて地域社会に貢献する」

わが社の成長発展こそがお客様の生活文化の向上を促し、社会への大きな貢献となることを念願し、チェーンストア業界の名門としての地位を永遠に確立する。

私たちの目指すもの ～オークワ経営ビジョン～

「変わらぬ想いで、変わり続けるスーパーマーケット」

環境、社会、経済などの変化に適応し、顧客ニーズに即した便利さとお買い物の楽しさを提供する店舗づくりで、お客様の生活に欠かせない地域の生活インフラとして貢献し続けます。

オークワの信条

- 1 今日、只今あるすべてに感謝し、お客様並びに取引関係先様から、信頼され親しまれる会社になるよう日常の行動に誠実を尽くす。
- 2 技術革新に基づく合理的経営を行い、商品コストを下げ、常に良い品を安く奉仕させていただけるよう研究努力を行う。
- 3 愛と奉仕と誠実をモットーに商業を通じて地域社会に貢献する。
- 4 一挙に大を望まず、たゆみなき努力の積み重ねによる堅実経営を行い、長期の安定成長を計画し、全社員の福祉と生活向上を実現させる。

編集方針

オークワの企業姿勢や具体的な取り組み内容を、株主・投資家の皆様をはじめ、お取引先様、お客様などのあらゆるステークホルダーの皆様にご理解をいただくために、「オークワレポート」を作成しています。このレポートを通して、今後も皆様からの忌憚のないご意見をいただきながら改革を進め、地域社会と共に持続的に成長発展する企業になれるよう取り組んでまいります。

報告対象組織

株式会社オークワ
※一部、グループ会社の内容も含まれます。

報告対象期間

2022年度(2022年2月21日から2023年2月20日まで)
※一部、上記期間外の取り組み内容を掲載しています。

発行日

2023年7月31日

オークワレポートに関するお問い合わせ

株式会社オークワ
サステナビリティ推進室
〒641-8501 和歌山市中島185番地の3
TEL 073-425-2481(代)
URL <https://www.okuwa.net>

私たちの行動規範

1. お客様との関係

- 1 私たちは、お客様の安全安心を最優先に、関係法令を遵守し、お客様に満足いただける商品・サービスを提供することに努めます。
- 2 私たちは、常に公正かつ誠実な態度でお客様に接し、お客様からのご意見には迅速かつ的確に対応します。
- 3 私たちは、お客様の個人情報を守り、収集、利用、管理は適正な方法で行います。
- 4 私たちは、お客様からの苦情に対しては真摯に対応し、不当要求と認められる場合には上司と共に法令に則り適切な対応を心がけます。

2. 従業員との関係

- 1 私たちは、基本的人権と多様な価値観を尊重し、人種、宗教、性別、国籍、信条、障がい、年齢等に関する差別的言動、暴力行為、セクシャルハラスメント、いじめ等の人格を無視する行為を行いません。
- 2 私たちは、労働関係法や安全衛生に関する法令等を遵守し、従業員の安全衛生の確保を最優先に、安全で衛生的な職場環境の整備、維持に努めます。
- 3 私たちは、業務上のあらゆる情報を漏洩のないよう厳正に管理します。

3. 取引先との関係

- 1 私たちは、すべての取引先が当社と対等の立場であることを十分認識して、公正かつ誠実に対応します。
- 2 私たちは、取引先との接待や贈答品の授受を、社内規則及び社会的常識の範囲内とします。
- 3 私たちは、取引条件や契約内容等の業務で知り得た取引先の機密情報は、漏洩のないよう厳正に管理します。
- 4 私たちは、委託者責任の観点から業務委託先の業務についても健全性および適切性を管理します。

4. 株主との関係

- 1 私たちは、企業経営に関する法令を遵守し、企業経営と事業活動に関する情報を適法かつ適正に情報開示を行います。
- 2 私たちは、株主の権利行使に関する利益供与や会社関係者によるインサイダー取引は、株主からの信頼を裏切り、企業の信用を失墜させる行為であり、絶対に行いません。
- 3 私たちは、株主の財産に関する重要等の株主情報を漏洩しないよう厳正に管理します。

5. 社会との関係

- 1 私たちは、関連法令を遵守し、許認可取得、届出及び報告等の手続きを適時的確に行います。
- 2 私たちは、すべての企業活動にあたり環境保全を重視し、環境負荷の抑制に努めます。
- 3 私たちは、会計帳簿への記載や伝票、記録等を故意に事実と異なる不正処理を行いません。
- 4 私たちは、暴力団または反社会的勢力との関係を持たず、かつ取引を行いません。
- 5 私たちは、企業市民として社会貢献活動に積極的に参加し、地域社会の発展に寄与します。

目次

01	経営理念・経営信条	18	オークワのDXの推進
02	私たちの行動規範	19	環境への取り組み
03	トップメッセージ	22	気候変動への取り組み
04	オークワのあゆみ	23	魅力ある職場づくり
05	事業内容・事業展開	25	ガバナンス
07	サステナビリティの取り組み	27	ESGデータ集
09	お客様の健康かつ便利な暮らしの実現		
13	地球にやさしい、人にうれしいおいしいを		
15	地域社会への貢献		

トップメッセージ



株式会社オークワ 代表取締役社長
大桑 弘嗣
OKUWA HIROTSUGU

2022年は、ようやく「Withコロナ」に向けて日本政府が舵を取り、新型コロナウイルスへの対応と社会経済活動の両立に向けて動き始めました。しかしながら、ロシアによるウクライナ侵攻が発生、それを機に、エネルギー価格や物価の高騰がさらに加速し、世界的なインフレが進行しています。私たちの生活に直接影響が感じられる激動の時代ではありますが、経営信条である「商業を通じて地域社会に貢献する」を引き続き実現するため、新たな事へ果敢に挑戦し、お客様の生活になくてはならない安全・安心を提供し、お買い物を楽しんでいただけるスーパーマーケットを目指していきます。

オークワは、「レギュラー」「スーパーセンター」「メッサ」「プライスカット」の4つの業態で展開しており、地域のお客様のさまざまなニーズへの対応を図っています。2022年度は、新たにレギュラー業態の「オークワ中津川中村店」、メッサ業態の「メッサオークワ岩出店」を開店しました。特にメッサオークワ岩出店では、品揃えをより一層充実させ、お客様の健康を考えた商品や持続可能な社会に向けて取り組まれた「SDGsを付加価値とした、ちょっといい」商品などを取り揃えました。

11月には、グループ会社でありました「株式会社ヒラマツ」を合併致しました。双方の強みを取り入れながら、営業効率を高めるとともに、「ヒラマツ」店舗の営業力を強化していきたいと考えています。全ての業態において成功事例を横展開し、全店の商品力や作業効率をアップグレードさせ、より良い店舗に成長し続けていかなければなりません。

お客様に満足していただけるお店をつくるためにも、DXの促進によって作業時間を短縮し、お客様のご要望に寄り添える機会を更に増やしていきたいと考えています。その一例として、店舗の値札を電子値札へ変更し、現在は10店舗で導入を行っています。作業の効率化だけでなく、価格エラーの根絶にも寄与でき、お客様に信頼していただけるお店づくりにつながっています。

DXの推進はサステナブルな経営にも必要不可欠だと考えており、2022年5月1日に経済産業省が主管するDX認定を受けました。法令への対応や環境を考えたペーパーレス化に加えて、現在の社会で求められている非財務情報の開示を行うためにも、全社をあげて取り組むべき項目だと考えています。

変わり続ける世界の現状に対応していくために、2022年度より公募制のプロジェクトチームを立ち上げました。その問題や課題に興味のある方や長く携わっていた方など、挑戦する気持ち強い社員をチームに採用しました。チームがオークワに新たな風を吹かせてくれる事を期待しています。

私たちは、これからも変わらず「商業を通じて地域社会に貢献する」という信条の実現に向けて、社会貢献活動にも取り組んでまいります。寄付だけに留まらず、持続可能な社会の実現に向けて地域の方と共に歩いていく所存です。今年度は、環境保護について共に考えるメーカー様と清掃活動を行い、食品ロスをなくすために日本中で行われている「てまえどり」の推進など、出来ることから一つずつSDGsに向き合っていきます。

また、環境問題に寄与するため昨年から導入していました「ペットボトル回収機」の設置を大幅に拡大し、リサイクルの促進に向け「ボトルtoボトル」という取り組みも開始しました。ペットボトルを再度ペットボトルへリサイクルすることによって、資源の消失を防ぎ、更にCO₂の削減にもつながります。太陽光発電設備も19カ所に増加し、再生エネルギーとの併用でカーボンニュートラルの実現にも取り組んでまいります。

これらのすべてを実現するためには、従業員の健康やワークライフバランスも重要な項目のひとつであると考えており、2022年度は経済産業省より「健康経営優良法人2023」の認定を受けました。取得はスタートに過ぎず、直面している課題や新たな働き方の提案を行っていき、全従業員が健康で生きいきと働くことのできる職場づくりに挑戦する所存です。

2021年9月に新設しました「サステナビリティ推進室」も2年目を迎えました。環境問題や食育、社会貢献活動を更に促進し、地域社会の皆様と「持続可能な社会」の実現に向けて歩いていけるよう、様々な取り組みを実施し、安全・安心な社会へ貢献することに尽力してまいります。

この度、サステナビリティの取り組みを主軸とした当社の活動報告書「オークワレポート2023」を発行いたしました。皆様からのご理解やご支援を引き続き賜りますよう心よりお願い申し上げます。

- 1959年** (昭和34)
 - ・オークワのスーパーマーケット第1号店「主婦の店 新宮店」オープン
 - ・三重県へ進出「主婦の店 熊野店」オープン
- 1966年** (昭和41)
 - ・「主婦の店 オークワ」から「オークワ」へ社名変更
- 1969年** (昭和44)
 - ・オークワ創立10周年
 - ・株式会社 主婦の店オークワ設立
- 1974年** (昭和49)
 - ・株式会社平和堂ほか合計7社で共同仕入機構「日本流通産業株式会社(ニチリウ)設立
- 1975年** (昭和50)
 - ・株式会社 チェーンストアオークワに社名変更
- 1977年** (昭和52)
 - ・新たなシンボル「ハト」のロゴマーク誕生
- 1979年** (昭和54)
 - ・オークワ創立20周年
- 1985年** (昭和60)
 - ・奈良県へ進出「オークワ 五条店」オープン
- 1987年** (昭和62)
 - ・大阪証券取引所市場第二部に上場
- 1988年** (昭和63)
 - ・「和歌山食品工場」(和歌山市)設立 ※惣菜工場は翌年9月創業
- 1989年** (平成元年)
 - ・オークワ創立30周年
 - ・代表取締役社長に大桑 増嗣就任(現取締役)
- 1990年** (平成2)
 - ・大阪証券取引所市場第一部に上場
- 1992年** (平成4)
 - ・「和歌山物流センター」(和歌山市)設立
- 1993年** (平成5)
 - ・当社最大のショッピングセンター「パームシティ和歌山店」オープン
 - ・「大桑教育文化振興財団」設立
- 1995年** (平成7)
 - ・「オーカード」サービス開始
- 1998年** (平成10)
 - ・代表取締役社長に大桑 啓嗣就任(現取締役)
- 1999年** (平成11)
 - ・オークワ創立40周年
 - ・「みはま食品工場・流通センター」(三重県南牟婁郡)設立
 - ・「関流通センター」(三重県亀山市)設立
 - ・本社新社屋完成
- 2000年** (平成12)
 - ・株式会社 チェーンストアオークワから株式会社 オークワに社名変更
- 2001年** (平成13)
 - ・東京証券取引所市場第一部に上場

- 2003年** (平成15)
 - ・「オーカードプラス」サービス開始
 - ・「泉佐野流通センター」設立
- 2004年** (平成16)
 - ・プライスカット第1号店「西浜店」オープン
 - ・メッサ第1号店「メッサオークワガーデンパーク和歌山店」オープン
 - ・「セルフレジ」誕生 西日本初導入
- 2005年** (平成17)
 - ・「スーパーセンターオークワ南紀店」オープン(スーパーセンター最大4,000坪)
 - ・「マツモトキヨシ」と業務提携
 - ・「ヒラマツ」と資本業務提携
- 2006年** (平成18)
 - ・ネットスーパー1号店「ネットスーパーオークワ和泉小田店」オープン
- 2007年** (平成19)
 - ・愛知県へ進出「オークワ愛西プラザ店」オープン
- 2008年** (平成20)
 - ・東海エリア高質スーパー「株式会社パレ」グループ会社化
 - ・新惣菜工場「オーデリカファクトリー和歌山」設立
 - ・岐阜県へ進出
 - ・兵庫県へ進出「プライスカット明石大久保店」オープン
- 2009年** (平成21)
 - ・オークワ創立50周年
 - ・岐阜県にスーパーセンター業態、レギュラー業態初出店
- 2010年** (平成22)
 - ・新オーカードプラス誕生
 - ・日本初上陸「ドライブスルー」型ネットスーパーがオープン
- 2011年** (平成23)
 - ・ネットスーパー和歌山県下全域配達スタート
- 2012年** (平成24)
 - ・代表取締役社長 兼 COOに神吉 康成就任
 - ・連結子会社 株式会社パレとの合併
- 2013年** (平成25)
 - ・「東海食品センター」(愛知県春日井市)開設
- 2015年** (平成27)
 - ・創業者・大桑 勇 生誕100周年
 - ・紀の国わかやま国体オフィシャルスポンサー協賛
- 2016年** (平成28)
 - ・電子マネー機能付きオーカード導入
- 2017年** (平成29)
 - ・新食品製造工場「オーデリカファクトリー安八」(岐阜県安八郡)新設稼働
 - ・オークワ「食と暮らしの大博覧会」初開催
 - ・オークワレギュラー業態 静岡県へ進出
- 2019年** (令和元年)
 - ・オークワ創立60周年
- 2020年** (令和2)
 - ・静岡県にスーパーセンター業態初出店「スーパーセンターオークワ掛川店」オープン
- 2021年** (令和3)
 - ・代表取締役社長に大桑 弘嗣 就任
- 2022年** (令和4)
 - ・東証プライム市場へ移行
 - ・連結子会社株式会社ヒラマツ 吸収合併

和歌山県初のセルフ方式スーパーマーケット「主婦の店 新宮店」



メッサオークワガーデンパーク和歌山店



「日本流通産業株式会社」設立祝賀会において挨拶する創業者 故・大桑 勇



オークワ愛西プラザ店オープニング



オーデリカファクトリー和歌山



スーパーセンターオークワ豊老店(岐阜県)



創立50周年記念ロゴ



オークワ・パレマルシェ合併記念ロゴ



電子マネー機能付きオーカード



オーデリカファクトリー安八



オークワのロゴマーク移り変わり



オークワ本社中島店



株式会社オークワ



東京証券取引所オープンプラットフォームにおいて開催されたオークワ上場記念式典



事業内容・事業展開

4つの業態で、地域の持続的な成長に貢献

地域密着、低価格訴求、高級志向、ワンフロアワンストップショッピングといった視点を4つの業態に落とし込み、事業を展開しています。また、お客様と商品がデジタル店舗でもつながるチャンネルも運営しています。多様化するお客様のニーズに対応する多角的展開で、地域の持続的な成長と生活の質の向上に貢献し、地域になくてはならない生活インフラとしての存在感の向上を図っています。

レギュラー業態



「地域密着を第一に」をコンセプトに、食料品・日用品を中心に、毎日の食と暮らしをサポートする商品を提供する業態です。

94店舗



オークワ本社中島店

スーパーセンター業態



毎日の暮らしに欠かせない商品、サービスを、ワンフロアワンストップショッピングでご提供する業態です。「衣・食・住」のすべてを扱う大型店舗です。

29店舗



スーパーセンターオークワ瑞浪店

メッサ業態



「高級志向」のお客様をターゲットとした、上質な美味しさを揃えたひとクラス上のスーパーマーケットです。商品だけでなく、内装にもこだわり、高級感あふれる空間とし顧客満足度の向上を図っています。

7店舗



メッサオークワ岩出店

プライスカット業態



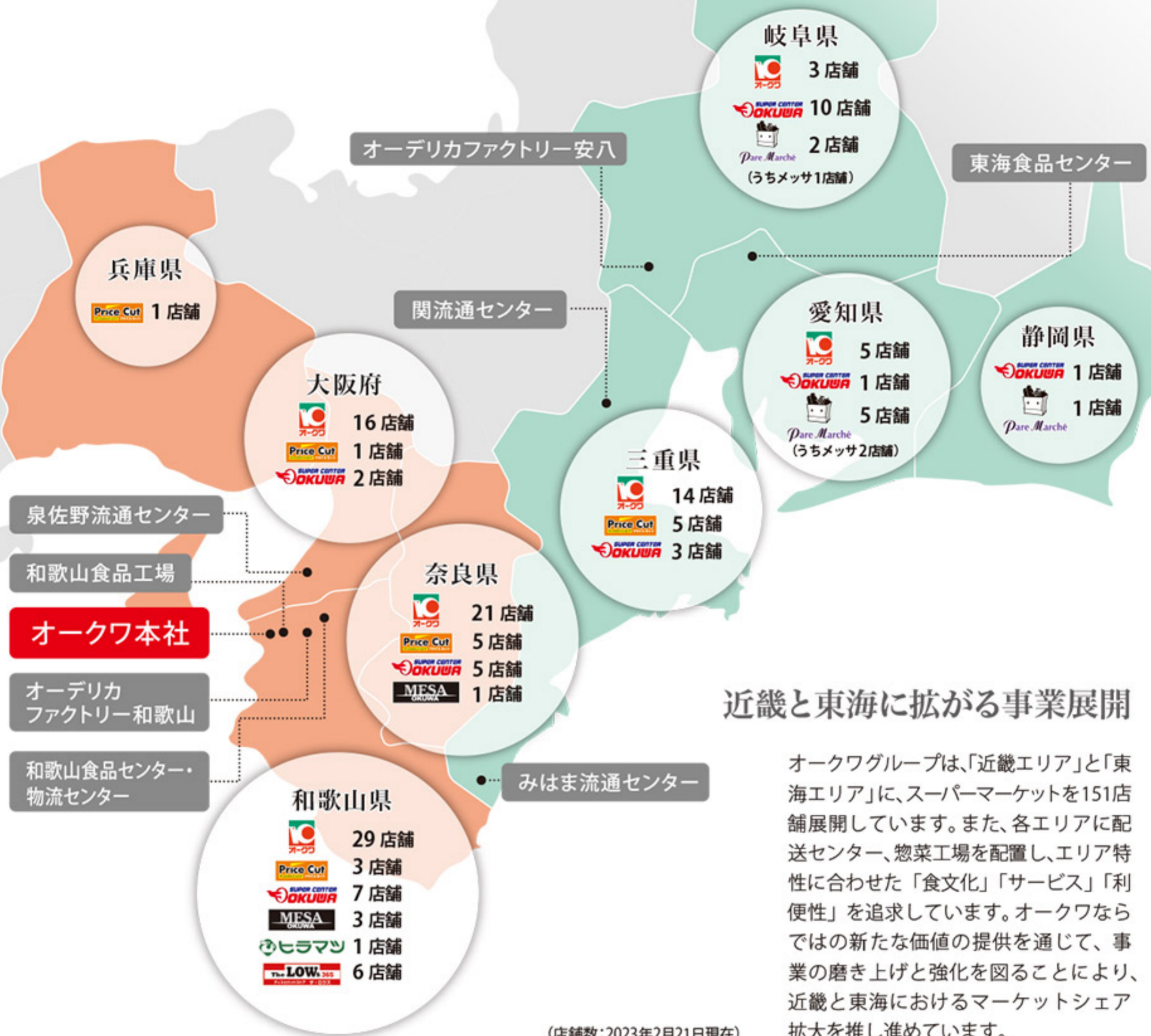
とにかく安い「低価格訴求」をコンセプトとした、プライス最優先の業態です。効率的な運営、ローコストオペレーションを徹底し、驚きの価格を実現しています。

21店舗

(店舗数:2023年2月21日現在)



プライスカット松阪大石店



近畿と東海に広がる事業展開

オークワグループは、「近畿エリア」と「東海エリア」に、スーパーマーケットを151店舗展開しています。また、各エリアに配送センター、惣菜工場を配置し、エリア特性に合わせた「食文化」「サービス」「利便性」を追求しています。オークワならではの新たな価値の提供を通じて、事業の磨き上げと強化を図ることにより、近畿と東海におけるマーケットシェア拡大を推し進めています。

会社概要

創業	1938年5月	従業員数	15,974名(準社員を含む) (2023年2月21日現在)
会社創立	1959年2月27日	事業内容	システムによるチェーンストア経営 食料品、酒類、米類、家庭用品、住居用品、 室内装飾品、DIY、レジャー用品、スポーツ用品、 家庭電化製品、化粧品、医薬品、衣料品の販売
会社設立	1969年2月21日	グループ会社	株式会社オークフーズ 株式会社リテールバックオフィスサポート 株式会社サンライズ 株式会社オー・エンターテイメント 有限会社マミー
会社名	株式会社オークワ		
資本金	141億1,749万円		
代表者	代表取締役社長 大桑弘嗣		
本社	和歌山市中島185番地の3 TEL.073-425-2481(代)		

サステナビリティの取り組み

持続可能な社会と暮らしの実現に向けて

「商業を通じて地域社会に貢献する」の経営信条のもと、お客様から信頼される企業を目指しています。そのために、すべてのステークホルダーの皆様と協働して、当社グループの成長と社会の持続可能性を両立させるため、「サステナビリティ基本方針」を定めるとともに、サステナビリティの優先課題として「サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)」を掲げ、取り組みを推進しています。また、「サステナビリティ基本方針」に基づき、「オークワ持続可能な調達原則」および「オークワ持続可能な調達方針と目標」を定めました。

サステナビリティ基本方針

- 1 地域社会の発展につながる活動に関わり、地域の皆様のより良い生活に貢献します。
- 2 安全、安心、健康に配慮した商品を提供し、取引先との公正な事業慣行に則ったサプライチェーンを構築します。
- 3 地球環境問題の解決に取り組み、持続可能な社会づくりと環境負荷低減に努めます。
- 4 地域社会との連携と協調を図り、地域社会の一員としての責任を果たします。
- 5 次代を担う子供たちが明るく健康に育つよう育成支援に努めます。
- 6 世界各国ならびに日本の環境法令、地域の条例・協定、ステークホルダーとの合意事項等を遵守し、適切な対応を行います。

オークワ持続可能な調達原則

- 1 自然資源の違法な取引・採取・漁獲を排除します。
- 2 農産物や漁業支援の産地、漁獲方法などのトレーサビリティを確立します。
- 3 再生不可能な資源の利用については、最小限に留めます。

オークワ持続可能な調達方針

1. 資源の枯渇防止と生物多様性保全の観点から、自然・生態系への影響を把握し、その影響の低減と保全活動を積極的に推進します。
2. 持続可能性に配慮し、資源管理された生鮮食品や加工食品について調達目標を設定し仕入れ、販売活動を行います。

分野別調達方針と目標

農産物

環境配慮した栽培商品、有機栽培・減農薬栽培商品の取り扱いを拡大していきます。

畜産物

循環型餌の使用、環境配慮した農場の開拓、取り組みを拡大していきます。

水産物

養殖魚については、完全養殖・環境配慮型養殖を。天然魚については、資源保護の観点から乱獲漁法以外での水産物調達を可能な限り採用していきます。

加工食品

環境配慮型商品や地産地消商品を積極的に採用していきます。

紙・パルプ商品

再生紙を原料とする紙製品や、脱プラを目的とした紙パッケージ商品を可能な限り推奨販売していきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)

重点項目	課題項目	具体的施策例
環境保全のための 負荷軽減	気候変動対応 (温室効果ガス排出量削減)	・クリーンエネルギーの導入 ・省エネの徹底
	フードロスの削減	・店舗/拠点におけるフードロス削減
	環境負担低減	・店頭回収資源の活用 ・プラスチック使用量の削減 ・廃棄物削減
多様な人材が 挑戦する魅力ある 職場の実現	人材の獲得、維持	・安定した採用 ・外部人材の獲得 ・適切な人材配置
	働きやすい職場環境の整備 (労働安全衛生・健康経営推進)	・店舗作業の軽減 ・長時間労働/連続勤務の回避
	ダイバーシティの推進・ 人権尊重	・必要とされる「多様性」の特定 ・人権方針の周知
	従業員教育の深化	・従業員スキルの平準化 ・キャリアパス制度による意欲増進
サステナビリティに 配慮した商品の提供	省エネ・エシカル商品の提供	・省エネ商品の導入 ・エシカル消費への対応
	サプライチェーンマネジメント	・トレーサビリティの確立 ・グリーン物流
お客様の健康かつ 便利な暮らしの実現	お客様の健康・栄養支援・ 顧客体験拡大	・食物アレルギー表示 ・低アレルギーメニューの開発
	商品の安全性向上	・安全基準の見直し ・品質管理の徹底 ・食品情報の発信
	デジタル化の推進	・店舗デジタル化 ・ECサービス拡大 ・情報セキュリティ
地域社会 (コミュニティ)との 共生	少子高齢化への対応、 地域創生への貢献	・大桑教育文化振興財団の活動 ・社会貢献活動
	交通弱者への対応、配達	・送迎・配達・出張販売の充実化
社会からの信頼を 高める法令順守と リスク管理	コーポレートガバナンス強化	・監査等委員会 ・指名報酬委員会
	災害への備え、減災、BCP	・災害対策 ・老朽化インフラへの対応
	リスクマネジメント	・リスク管理体制の強化

お客様の健康かつ 便利な暮らしの実現

この活動に関する SDGs の取り組み



お買い物をより便利に楽しく

いつでも快適にお買い物をしていただくために、お客様の利便性向上に取り組んでいます。昨今は特にDXの推進に重点を置き、デジタルを活用したサービスの拡充を進めるとともにリアル店舗との融合を図り、お客様ごとに最適なサービスを提供できる環境づくりを目指しています。

お買い物サポート

● ネットスーパー オークワ



ご自宅や職場などからいつでもお買物をしていただけるよう、店舗で販売している商品をオンラインで販売するネットスーパーを開設しています。2022年度にネットスーパーの基幹システムを一新し、ネットスーパー用アプリも導入いたしました。今後もお客様の利便性向上に取り組んでいきます。



● e-ショップオークワ



お中元・お歳暮などをオンラインで予約・注文できるサイトを開設し、全国に配送しています。また、季節の予約弁当、クリスマスケーキなどの予約商品を最寄り店舗で受け渡ししています。ネット限定商品の販売などお客様に喜んでいただける新たな展開を推進していきます。

● 即日配達サービス「おたすけ便」

お客様の利便性向上を目的として2005年にサービスを開始した「おたすけ便」は、店舗での買い物品をご自宅に配達するサービスです。現在101店舗で実施しており、お客様のご要望を受けて配達エリアの拡大や受付件数の増加などサービスの改善を続けています。

シニア層・障がいをお持ちの方への支援
「ハートフル倶楽部デー」



60歳以上もしくは障がいをお持ちのお客様を対象に、「おたすけ便」を無料でご利用いただけるサービスデー（毎月15・16日）を設け、ご好評をいただいています。

キャッシュレスの推進

● お客様の暮らしに根付いた「オーカード」

オーカードは、お客様への感謝の気持ちをポイントで還元することと、購買データ分析を品揃えなどに活用することを主目的として1995年に導入しました。2016年には電子マネー機能付きに進化させ、クレジット機能付きのオーカードプラスと合わせると和歌山県民の約6割が利用する、暮らしに根付いたカードになっています。コロナ禍により利用が進む非接触支払いのひとつとしても貢献しています。



オーカードプラス



オーカード

● 多彩な決済サービス

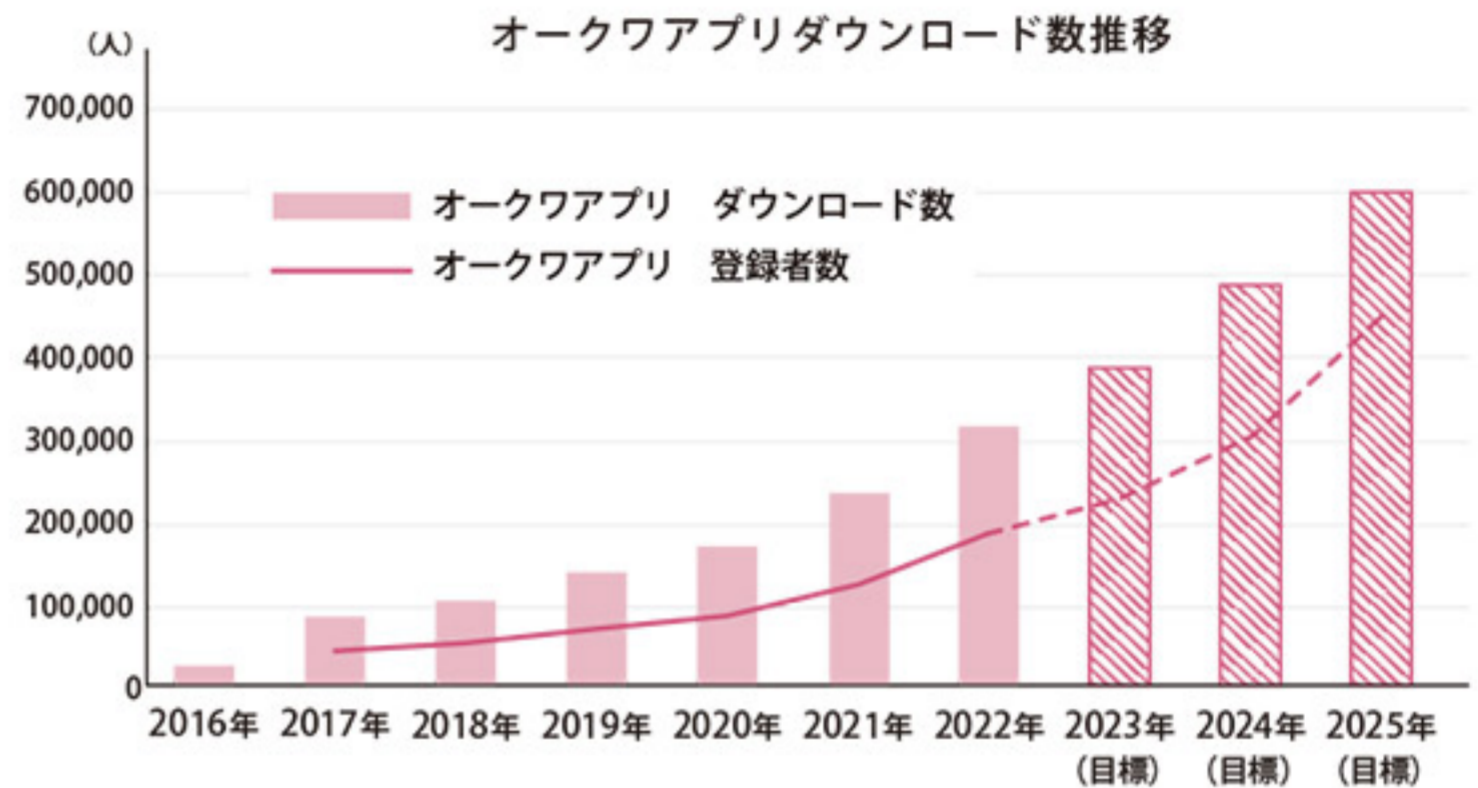
自社のオーカード電子マネーをはじめ、様々なコード決済、またiDやEdy、交通系の非接触電子マネーやクレジットカード決済など様々な決済サービスを充実させ、安全・安心なお買い物環境を提供しています。



※「LINE Pay」はLINE株式会社の登録商標です。※「au PAY」はKDDI株式会社の登録商標です。※「d払い」は株式会社NTTドコモの登録商標です。※「メルペイ」は株式会社メルカリの登録商標です。※「PayPay」はZホールディングス株式会社の登録商標です。※「ゆうちょPay」は日本郵政株式会社の登録商標です。※「楽天ペイ」は楽天グループ株式会社の登録商標です。

● オークワアプリ

デジタルマーケティングは、オークワアプリを中心に取り組んでいます。各店のチラシやお買得情報、お買得なクーポンの配信やキャンペーンに簡単に応募できる「キャンタッチ」、ポイント獲得を促進させる「クータッチ」など機能を充実させています。また今後はオーカードをバーコード化し、アプリでオーカード電子マネーの決済が可能になるように進めています。



● オークワSNS関連

オークワのブランド向上のため、各種SNSに取り組んでいます。特にInstagramについてはオークワブランド商品の発信、またオリジナルキャラクター「クワノミちゃん」の活動報告に活用。LINEやツイッターではお得情報の発信を実施。YouTubeではオークワプレミアム商品を使ったレシピを公開するなど、お客様の暮らしを豊かにする情報をお届けしています。



Instagram



クワノミちゃん

オークワオリジナルキャラクター
クワノミちゃん

サービススキル向上を目指して

● 接客レベルの向上

「さわやかな身なりで、相手の目を見て、明るい声と笑顔で自分から挨拶ができる」を目標に、接客レベルの向上を目的とした研修やフレンドリーサービスの認定などを行っています。今年度は、認定の最高ランクである「ゴールド」獲得者数増加を目指して、各店舗にて30分のカスタマーサービス研修やリーダーの任命などを実施します。また、チェッカー（レジ精算係り）を対象にコンクールを開催、お客様だけではなくチェッカーの笑顔にもつながるよう努めています。



30分研修



ゴールド認定バッジ

高水準な品質管理体制を整備

お客様に安心してお買い物をしていただけるよう、商品の品質管理を徹底するための体制を整備しています。また、コロナ禍を経てお客様の安全・安心に関する意識が非常に高まっています。品質・衛生管理に継続的に取り組み、お客様に安全・安心な食生活環境を提供します。

安全・安心な商品を提供する取り組み

品質・衛生管理体制

お客様の健康を支える毎日の食事シーンに、安全・安心でおいしいものを提供することを第一義として、食品の品質・衛生管理の徹底を図っています。

1 自主基準に沿った管理基準の実施チェックと指導

- ◆店舗での各部門衛生・鮮度・品質管理基準に従った自主点検実施
- ◆店舗での品質パトロールによる実施状況確認と売り場商品の鮮度・品質チェック
※品質パトロールとは店舗の品質管理専任従事者です

2 品質管理トレーナーによる店舗チェックと指導

- ◆衛生管理については、品質管理トレーナーによる巡回指導および、年2回の作業場点検を実施
- ◆品質管理基準の標準化に向けて集合教育を実施

3 食品工場・加工センターとの連携

- ◆原材料入荷から商品の出荷、店舗への到着に至るまでの温度管理の徹底
- ◆外部機関による立ち入り検査を実施
- ◆各工場・センターに微生物検査室を備え、製造ライン、原材料、商品の衛生管理の徹底を図る

4 商品表示管理の取り組み

- 品質表示の適正化
 - ・国産牛肉トレーサビリティ表示と管理の確認、指導、改善
 - ・法令に沿った原材料表示、産地表示、アレルギー表示
- 消費・賞味期限切れの防止
 - ・製造部門は、特に原材料の使用前、作業終了後での日付チェックの徹底を図る
 - ・非製造部門は、消費・賞味期限の長さに応じ、期限チェックの頻度・値引きシール等のルールを定めており、それに基づいた運用を行っている

資格取得の推進

食品情報を正しく表示する専門知識を養える「食品表示検定」や従業員の安全かつ衛生的であるよう管理する「衛生管理者」の取得を推進し、役職によっては必須資格にすることによって、安全・安心をステークホルダーの皆様にお届けできるよう力を入れて取り組んでいます。

品質管理室の活動

オークワ全店舗の品質・衛生管理と従業員への指導や、法改正への対応等を行う「品質管理室」を設置し、食品事故の未然防止に取り組んでいます。

品質管理室の主たる活動

- ・年4回、店舗の微生物検査を実施
- ・年2回、店舗の衛生管理および、従業員の身だしなみと食材の取り扱い方法をチェック
- ・品質管理トレーナーによる店舗巡回、従業員への指導



微生物検査室での検査の様子



畜産・水産・惣菜・ベーカリーのスタッフは、髪の毛一本も落ちないように帽子を二重にかぶります。

食品工場・センターでの取り組み

● 金属探知・X線検査機

食品製造工程での異物混入を防ぐために、金属探知・X線検査機を導入しています。食品工場・センターで製造した商品は、すべて検査を実施して出荷しています。



● 微生物検査室

食品工場とセンターに併設している「微生物検査室」で、製造している商品の細菌検査を実施し、衛生管理を徹底しています。また、製造部門従事者の手指、調理器具、製造設備等の細菌検査も定期的に行っています。



地球にやさしく、人にやさしく
地域の生活モデルを提案する新店

メッサオークワ岩出店

2022年10月28日にオープンした「メッサオークワ岩出店」は、暮らしに選ぶ楽しみを提供する魅力ある店舗を目指し、様々な新たな試みを取り入れている新店舗です。特に、お客様のサステナブルな商品ニーズの高まりを受けて、SDGsに配慮した商品の品揃えや売り場展開を推し進めています。

● 素材や製法、健康情報を発信

お客様の商品選びの手助けになるよう、素材や製法、健康をサポートするお役立ち情報を大きなパネルにして、商品棚の上に掲示。お買い物をしながら身体によい食と環境について知り、考えていただけるような売り場づくりを行っています。また、SDGsを意識したお買い物がしやすいよう、サステナブルな商品のパネル紹介もしています。

平田牧場の豚肉は、安心して美味しく食べられるサスティナブルポーク!

健康に育った豚の排せつ物は質の高い堆肥となり土地に還元されます。その土地で飼料用米を作ることで他国の食糧や水を奪わない資源循環に取り組んでいます。



実は、チーズって完全栄養食!

チーズは、牛乳の栄養成分が詰まった完全栄養食といわれるほど、体に必要な栄養がバランスよく含まれています。出典：「日本食品標準成分表2020年版(八訂)」

カルシウム	脂肪	たんぱく質	ビタミン
強いからだや、骨の成長に欠かせない栄養素。チーズなど乳製品での摂取が最も効果的です。	「脂肪の中の王様」といわれるほど消化の良い乳脂肪を豊富に含んでいます。	筋肉・骨・血液を作るために必要なたんぱく質。チーズには「白い肉」と呼ばれるほど豊富に含まれています。	身体の機能を維持するために欠かせない栄養素で、ビタミンAとビタミンB2が多く含まれています。

● 女性目線の売り場づくり

女性バイヤーを大幅に増員し、「女性目線」を取り入れた売り場づくりや商品提案を行っています。女性に好まれやすい「ちょっといい」商品や、いつもの買い物が少し楽しく、わくわくするような陳列に留意するとともに、幅広い層にワンランク上の商品を提案し、お客様の暮らしをより豊かにできる店舗を目指しています。



● こだわりの店内調理&地域商品

北海道産全粒粉小麦を使用した手づくりのベーグルや食パン、新潟県産こしひかり(特別栽培米)を使用した少しリッチな具材のこだわりが詰まったおにぎりなど、メッサ業態ならではの店内手づくり商品をラインナップしています。近海でとれた新鮮な魚の丸売りや岩出市のシェフと共同開発したドレッシングなど、地域に寄り添った商品も揃えています。



● SDGsに貢献する商品

「フェアトレード」「レインフォレストアライアンス」「有機JAS」などサステナブル認証マーク付き商品の取り扱いや、循環型飼料で肥育された精肉商品など、SDGsに根ざした商品を取り揃えています。「SDGsという付加価値を暮らしの中へ」との思いをお客様と共有できるよう、情報発信にも努めていきます。



引用: FAIRTRADE



引用: Rainforest Alliance

● 環境に配慮した外装・内装

店舗自体も環境に配慮した造りとしています。石炭灰や端材を原材料としてつくられたエコな外壁材や、瓦を再利用した壁材などのアップサイクル材を建材として使用し、環境に寄り添ったサステナブルな建物を実現しました。また、この取り組みをお客様に知っていただけるよう、イートインコーナーに原料や説明文をディスプレイ展示しています。展示を通じて、お客様に環境問題やエコ素材に関心を寄せていただけるよう、また「持続可能な社会の実現」に貢献できる店舗になれるよう心がけています。





地球にやさしい、 人にうれしいおいしいを

毎日おいしいを、もっと

これまで以上に時代のニーズに即した便利さとお買い物の楽しさ、おいしさを提供する「驚きと感動」のある店づくりを目指し、2020年2月から4つのオークワブランドの開発に取り組んでいます。オークワブランドは当社の成長戦略の柱のひとつであり、お客様の声をお聞きしながら魅力ある商品開発に尽力してまいります。

オークワブランドを通じて、こだわりのおいしさをお届け

オークワプレミアム



オークワプレミアムは、4つのオークワブランドの中核であり、当社が取り扱う商品の中でクオリティの頂点に立つブランドです。産地、原料、製法（製品）、味、安全・安心など、自社で定めた厳しい条件をクリアした商品のみで冠しています。カテゴリーは鮮魚・水産加工品、野菜・果物、精肉・加工肉、惣菜、スイーツなど多岐にわたり、その一例を紹介します。

● Mowiサーモン

持続可能性につながる人工種苗から孵化・養殖し、専用飼料を与えて育てたサーモンです。専用飼料はサステナビリティにこだわり、すべての原料でトレーサビリティを確保し、持続可能性が認められた原材料のみを使用。また全ての調達先の雇用環境が人道的かどうかもチェックしています。



● シェフ監修「魚をたべる弁当」

専属シェフ監修の商品を拡大し、「オークワだけ」の商品を提供することにより、他社との差別化を図っています。近年、日本人に不足しがちといわれている「魚」を手軽に楽しく食べていただけるよう、こだわりの鮮魚を店内で焼き上げています。



● 鹿児島県産 薩摩もち豚

オークワ指定農場「そお元気ファーム」で肥育。地元鹿児島のプロフェッショナルと開発したさつまいもや大麦などを配合した専用飼料が甘さとうま味を引き出しています。また、ストレスを抑えるために、保湿、吸湿、クッション性、脱臭に優れたオガコ（木くず）を豚舎に使用し、自然に近い飼育環境で育てています。



● シェフ監修ドレッシング

和歌山県岩出市のフレンチレストラン「ピストロ・ムッシュ」の小谷シェフが監修したドレッシング。厳選した食材を使用した鮮やかな色合いのドレッシングが素材の味を引き立てます。



● 高橋ファームのまりひめいちご

和歌山県のオリジナル品種「まりひめ」いちご。高橋ファームでは、大粒の苺を生産者自らが厳選しています。「まりひめ」の栽培に最適な自家製堆肥づくりからこだわりをもって栽培しており、コクのある優しい甘みが魅力です。



● ぷりっとおいしいちくわ

MSC 認証スケトウダラを100%使用した卵・でん粉・保存料は不使用のちくわです。オークワのプライベートブランドで、初めてMSC「海のエコラベル」が付きました。

※MSC 認証ラベルは、水産資源と環境に配慮し、持続可能な漁業によって採られた天然の水産物のみについているラベルです。





オークワマルシェ

商品を知り尽くした当社のバイヤーがおすすめするブランド「オークワマルシェ」。価格以上のこだわりをプラスした、オークワの独自性が光る付加価値商品です。

● ECOみらいたまねぎ

農業や肥料を減らして、環境と調和のとれた安全・安心な生産に取り組んでいる「JAきたみらい」のたまねぎです。



● オークワ名物コロッケ

北海道常呂町産のじゃがいもを使用。冷めてもおいしく食べられるように衣をサクッと揚げ、飽きない味付けにしています。



● 勝栄丸漁獲限定かつお

水産資源を守る漁法と認定された「勝栄丸の一本釣りかつお」のみを販売。海洋資源の保護を図りながら、鮮度・品質にこだわったかつおをお届けします。



オークワセレクト

オークワの商品開発ポイントに合致したメーカー商品だけを、当社のバイヤーがセレクトした特選品ブランドです。その一例を紹介します。

● フルーツリキュール「和果」

和歌山の企業「湯浅ワイナリー」と協同開発した和歌山県産果物×ワインのリキュールです。



● もちもち食感どら焼き粒あん

生地にもち粉を配合し、もちもちな食感を実現。北海道産小豆を使用しています。



● ボール型洗たく洗剤

計量いらずで簡単にお洗濯ができる上に、すすぎ洗いが1回で済むので環境にも家計にも優しい洗剤です。



O-SOZAI

自社工場オーデリカファクトリーで製造しているお惣菜ブランドです。約200アイテムの惣菜を開発・製造しており、近畿と東海の2工場体制で、地域ごとの嗜好に対応する商品づくりを行うとともに、店舗への配送時間の短縮にも配慮しています。



もちり赤飯と
鶏五目の2色おこわ



ポテトサラダ



からだ思い弁当

共同開発PBブランド「くらしモア」

お客様に価値ある商品をお届けするために、業界トップクラスの共同仕入機構「日本流通産業株式会社(ニチリウ)」と共同で開発し、ニチリウのスケールメリットを生かした共同仕入れを行っているプライベートブランド「くらしモア」。豊富なアイテムとお手頃価格を実現しています。





地域社会への貢献

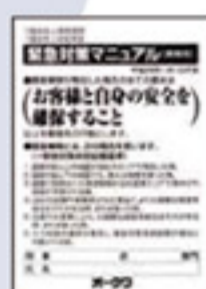
地域社会のいまと未来のために

人々の暮らしを豊かにし、社会の発展に寄与することは、オークワの重要なミッションです。地域の人々との交流を活発に図るとともに、教育や文化、スポーツ支援から寄付・寄託による支援まで、さまざまな活動に尽力しています。また、出店している地域のお客様・従業員の安全・安心のために、自然災害発生に対する取り組みや、流通業務における安全運転の徹底を推進しています。

災害時の対策

● 防災訓練

本社での災害対策本部設置訓練や、全事業所合同で防災訓練を実施しています。また、大規模災害が起きた場合には、行政や企業と連携し、食料品や住居関連商品等の救援物資を地域の皆様に届け支援する取り組みも行っています。

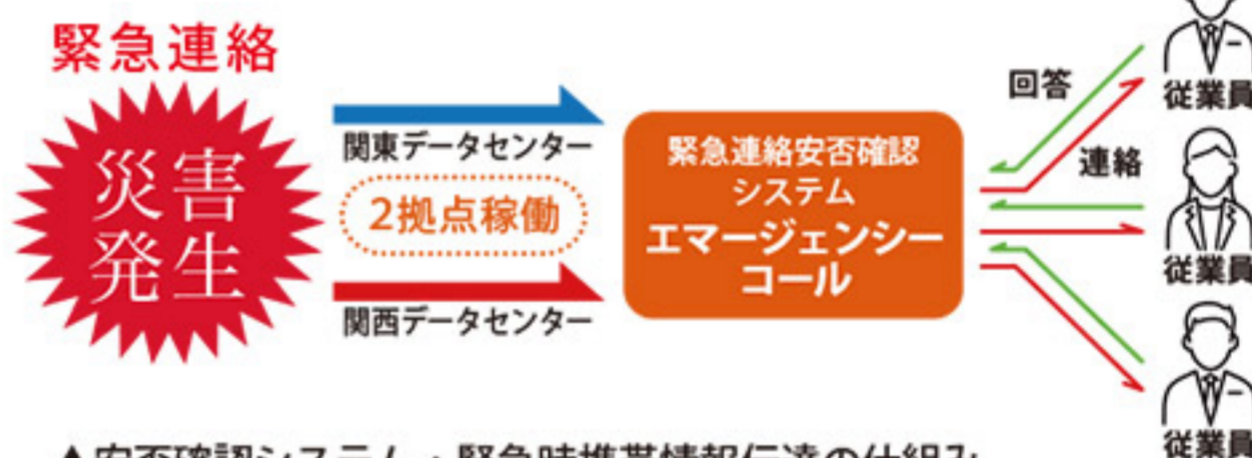


緊急対策マニュアルを常に携帯

全従業員（アルバイトを含む）に携帯用の「緊急対策マニュアル」を配布し、防災意識の向上に取り組んでいます。有事の際は、適切な判断を迅速に下させるよう、マニュアルの理解、実践を防災訓練で行っています。

● 安否確認システム

災害発生時に、従業員の安否と、事業継続可否の状況を把握するために、2018年3月より従業員全員を対象に「安否確認システム」を導入しています。地震発生（震度5弱以上）、大津波警報、大雨特別警報等が発令された時に、自動で登録エリアの従業員に安否確認の連絡が、メール、アプリ、電話で発信されます。防災訓練時に安否確認の訓練も同時に実施し、迅速に従業員の安全確認が可能な体制を取っています。



▲安否確認システム・緊急時携帯情報伝達の仕組み

● 和歌山県防災訓練に参加

毎年和歌山県が実施する防災訓練に参加しています。オークワの本業であるスーパーマーケット事業を災害時の地域支援に活かせるよう、食料品や住居関連商品等の救援物資を輸送する訓練などを行い、いざという時に備えています。

● 緊急時携帯情報伝達

本社や店舗、製造工場、流通などにおいて緊急事態が発生した際、店長・部課長をはじめとした従業員611台の社員用携帯を活用し、情報伝達・情報共有を行い、速やかな連携および、事態の終息に向けて一丸となって取り組む仕組みを構築しています。

自治体および企業・団体と災害協定を締結

災害時における物資や避難場所、復旧作業スペースなどを当社が提供する協定を出店地域の自治体や企業・団体と結んでいます。和歌山県とは、家畜伝染病発生時においても物資提供の協定を締結。2022年度は、新たに株式会社NTTドコモ関西支社とも協定を締結しました。平時より定期的な意見交換や連絡窓口の共有を行い、災害時には早期復旧を図ります。

協定締結自治体

和歌山	和歌山県、和歌山市、新宮市、御坊市、海南市
大阪	大阪府、河内長野市、河南町
奈良	奈良県
三重	三重県、熊野市、亀山市、朝日町
岐阜	美濃市、安八町、土岐市、瑞浪市
愛知	春日井市、幸田町

協定締結企業・団体

NTT西日本
和歌山放送
和歌山労災病院
日本流通産業
関西電力送配電 和歌山支社
NTTドコモ関西支社

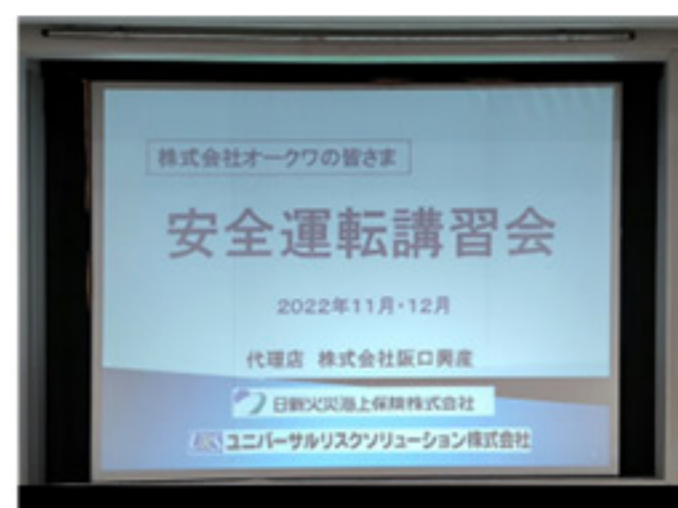
安全運転の徹底に向けて

● 車両運行管理システム

社有車運転時の安全運転を徹底し、「安全第一」を実現するために、様々な取り組みをしています。そのひとつが「車両運行管理システム」の導入です。運転開始・終了設定、運行データなどを収集する車載端末を車両に搭載し、ドライバーが安全運転に注力できるようにしています。この車両端末で運行データを可視化・分析することにより、一人ひとりの運転特性に応じたきめ細かい未然防止型の安全運転指導も実施していきます。また、飲酒運転への対応も強化しています。社有車の利用者全員に対してアルコールチェッカーによる乗車前検査および、社内アプリまた日報での報告を義務付けています。情報は、運行状況と共に、本社にて確認、管理しています。

● 安全運転講習会を毎年開催

日頃から安全運転に心がけるよう、本社所属の従業員で社有車個人貸与者および貸出社有車運行者を対象に、毎年安全運



転講習会を開催しています。2022年度は、「スマホ等ながら運転」を主なテーマとした講習を、6会場で計14回開催し、320名が受講しました。

お客様・従業員への緊急対応のために

AED(自動体外式除細動器)講習会

AEDを本社、店舗、センター、食品工場の全事業所に設置しています。いざという時に救命行動ができるように、従業員を対象に胸骨圧迫や人工呼吸による心肺蘇生法の手順とAEDの使い方を学ぶ「AED講習会」を実施しています。2022年度は、全事業所で講習会を実施し、総勢3,284名の従業員が講習会に参加し、AEDの使い方の習得に努めました。



寄付・寄託活動

● 赤い羽根共同募金運動

「商業を通じて地域社会に貢献にする」との経営信条のもと、2005年より赤い羽根共同募金運動に協力しています。地域の自治会や小・中学生等による街頭募金活動への場所提供を、店舗にて行っています。また、売り上げの一部が赤い羽根共同募金に寄付される「赤い羽根自販機」を現在3店舗に設置しており、更に他の店舗にも導入を予定しています。2017年からは、「寄付金付き商品」の販売も行っており、2022年度は、お中元ギフト6品、お歳暮ギフト31品を販売しました。

● スマート行使による国連 WFP への寄託

2023年5月16日開催の第54回定時株主総会での決議権行使における、株主様のスマート行使ご利用により、削減できました郵送費用の一部435,552円を「国連 WFP」へ寄託しました。SDGsの目標のひとつである「飢餓をゼロに」につながる支援へ役立てていただきます。

● 日本赤十字への義援金寄託

2023年2月6日に発生した「トルコ・シリア大地震」の被災地支援を目的に、店舗および事業所にて義援金の募金活動を実施しました。お客様とオークワグループ従業員から寄せられました義援金1,934,094円を日本赤十字社和歌山県支部に寄託しました。

● レジ袋有料化に伴う寄付

2020年7月にスタートした「レジ袋有料化義務化」に伴いお客様にご購入いただいた有料レジ袋の収益金を、各店舗が所在する自治体の環境保全や社会貢献を目的とした基金等に、寄付しています。

● 牛乳パック回収に伴う寄付

各店舗で行っている牛乳パックの回収・売却の収益を、出店地域の環境保全に役立てていただくために地方自治体(和歌山県・三重県・奈良県・大阪府・愛知県・岐阜県)へ、寄付しています。

● 和歌山県紀ノ国森づくり基金への寄付

①SDGsの目標達成を目指し、2022年6月の環境月間に、花王グループカスタマーマーケティング株式会社と協同で環境保全につながる企画を実施しました。地球にやさしい再生プラスチック商品や節水につながる商品を対象とし、お買い上げ金額の一部を寄付しました。

②環境保全活動を応援したいという思いから、サントリー株式会社との共同企画で、2022年2月21日～2023年2月20日の期間中にオークワ全店で対象商品をお買いいただいた金額の一部を寄付しました。

上記活動により、2023年4月26日に和歌山県庁本館で、和歌山県の農林水産部長から感謝状が贈呈されました。

創業の地、和歌山の発展を支援する「大桑教育文化振興財団」

公益財団法人 大桑教育文化振興財団は、オークワの創業者・故大桑勇が、会社を大きくしていただいた地域への恩返しを支援というかたちで行うことを目的として、私財を投じ、1993年9月に設立しました。和歌山県の文化、教育、スポーツに関わる各種助成事業を行い、地域の発展に寄与する活動を行っています。

2022年度の活動 援助・寄贈額 合計 **2,698** 万円

文化事業

大桑文化奨励賞

文化・芸術分野で優れた活動に取り組む和歌山県ゆかりの人に贈る大桑文化奨励賞に、和歌山市のピアニスト・千田和美さんと海南市出身のバイオリニスト・池原衣美さんが選ばれました。

文化活動に対する援助

和歌山県下で、文化の発展・継承に取り組んでいる「無形民俗文化財保持団体」と「文化活動」に対して毎年支援を行っています。2022年度は、系我得生寺の来迎会式保存会（有田市）と高芝の獅子舞保存会（那智勝浦町）、文化活動援助に、紀伊万葉ネットワーク（村瀬憲夫会長）が選ばれました。

スポーツ事業

スポーツ関係に対する援助

スポーツの発展や子どもたちの健康づくり、地域のコミュニティに寄与する活動を援助しています。2022年度は、次の3つの活動に対して援助を行いました。

- ①高等学校スポーツ選手に対する奨学金
- ②スポーツ選手強化費援助
- ③和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会



教育事業

大学生に対する奨学金の給付

能力があっても経済的な理由で大学進学をためらっている学生を援助したいとの願いから、大学生を対象に奨学金の給付を行っています。2022年度は51名に対して毎月3万円を給付しました。

学校等に対する図書への支援

和歌山県の図書館教育の充実を図り、学生に国語力をつけるために学校図書の寄贈を行っています。今年度は、幼稚園・こども園3園、小学校3校、中学校3校、高等学校1校の計10校園に寄贈しました。

教育活動援助(社会学習・文芸)

和歌山県内で行われる児童生徒の学習支援を目的とした活動の中から、精査した上で次の3つの教育活動を支援しました。

- ①中学生の「税についての作文」コンクール
主催：国税庁・全国納税貯蓄組合連合会
- ②ふるさとわかやま学習大賞
主催：和歌山県教育委員会
- ③和歌山県美術展覧会
主催：和歌山県

スポーツ支援

● オークワ女子卓球部

卓球を通じて「地域社会貢献に寄与する」ことを目標とし、1997年4月に発足したオークワ女子卓球部。所属選手たちは仕事と卓球の両立をモットーに、日々練習に励んでいます。日本卓球リーグ実業団連盟に加盟し、女子2部リーグにおいて年2回のリーグ戦や全日本卓球選手権大会などの国内主要大会にも参戦しています。また、地域貢献の一環として、地域の小中学生や卓球指導者の方などを対象に、卓球講習会を各地で開催しています。



● ちびっ子マラソン

「オークワ・S&B杯ちびっ子健康マラソン大会」は、1985年度開始以来、毎年約700名が参加する和歌山県有数のスポーツイベントです。この大会をオークワは30年以上にわたり、次代を担う子供たちが心身ともに元気に育って欲しいとの願いを込めて主催しています。コロナ禍により、2020年から中止となっていましたが2023年3月、4年ぶりに開催することができました。



オークワのDXの推進

デジタル接客ツールの整備と業務改革の両輪で推進

デジタル技術を活用することにより、お客様がオークワの実店舗とネット店舗の垣根を意識することなく生活シーンに合わせたお買い物がより便利に行える場面を提供し、利便性の向上およびお客様との密接な関係づくりを行います。また、オークワで働く従業員の働き方を変革することで、生産性の向上と働きがいのある職場づくりを目指します。

お客様との密接な関係づくり

お客様の利便性向上

- ・生産手段の多様化
- ・身近にある端末（スマートフォン）の活用

お客様への情報発信

商品自社ブランドの情報発信

実店舗とネット店舗の利便性向上

会員の統合

働きがいのある職場づくり

生産性向上

(接客・商品化売場づくりにシフト)

- ・発注業務
- ・レジ業務
- ・売場管理業務
- ・申請業務の簡素化

学びの環境整備

- ・作業場でのマニュアル活用
- ・商品知識の習得
- ・体系立った教育

オークワDXの取り組み

2019年より「IT戦略推進プロジェクト」を立ち上げ、組織横断で課題抽出および進捗確認を行い、全社的な取り組みとしてDXを推進しています。同時に、IT系人材確保と育成を行い自社開発の強化に取り組んでいます。

● 発注業務の効率化

2014年に自動発注システムシノプスを導入し、2018年よりAIによる客数予測・売上予測を開始し、発注業務の効率化を進めています。

● 農産加工品 約350アイテム自動発注対象に

(121店舗に導入(2023年5月10日現在))

年間発注時間 約**2,600**時間削減

● 水産加工品自動発注 約700アイテム

(全店舗に導入完了(2023年5月10日現在))

年間発注時間 約**42,000**時間削減

● 畜産部門週間発注システム導入

(124店舗に導入(2023年5月10日現在))

年間発注削減時間 約**12,400**時間

● 店頭での効率化

店頭においては、お客様の利便性と従業員の業務効率をどちらも向上するよう、デジタル技術の導入に取り組んでいます。

● 電子棚札の導入

価格エラーに対する処理、プライスカードの交換、価格チェックの作業削減を図ることのできる電子札を2022年度は10店舗に導入完了しました。

● レジ業務の効率化(スマホレジの導入)

お客様のスマートフォンで商品をスキャン・決済できるスマホレジを2022年2月より本社中島店に実験導入し、スマートショッピングと店舗運用効率化の推進に取り組んでいます。

● オーカード(会員カード)のスマートフォン化

オーカード・ネットスーパー・e-ショップ会員統合による利便性の向上を目指して、システム刷新を進めています。また、オーカードのスマートフォンアプリでの利用化も推進します。

DX 認定の取得

2022年5月1日、経済産業省が定める認定制



度に基づき、DX(デジタルトランスフォーメーション)認定事業者に認定されました。DXにより、限りある経営資源の投資を効率化し、計画業務などの付帯業務の作業時間を削減させて商品製造や接客といった付加価値を生む業務に資源を集中させることが狙いです。

和歌山大学との取り組み

2018年より和歌山大学と取り組んできた、大学生による「オークワの販売データを活用した課題解決型学習」。毎年先入観のない様々な視点でデータ分析がなされ、在庫ロス削減の糸口やロス増加に向かう構造の解明につながっています。この取り組みが、文部科学省に認められ、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」に認定されました。

環境への取り組み



次世代へつなぐ地球環境を創造

美しい地球環境を次世代に引き継ぐことは私たちの使命と考え、事業活動を通じて、環境保全活動を推進しています。太陽光発電設備の導入などハード面での取り組みに加え、小売という事業特性を活かし、来店されるお客様とともにできる活動も推進し、脱炭素社会の実現、さらにはプラスチック使用の削減に貢献していきたいと考えています。

環境基本方針

「商業を通じて地域社会に貢献する」の経営信条のもと、商品やサービス、店舗づくりを通じて環境保全に取り組み、従業員一人ひとりが環境保全活動の実践に努め、環境負荷低減と循環型社会の構築を目指すため、以下の基本方針を定めています。

- 1 環境に配慮した安全、安心な商品とサービスの提供に取り組みます。
- 2 環境に配慮した店舗づくりを目指し、省資源、省エネルギー、再生可能エネルギー調達に取り組みます。
- 3 廃棄物の排出抑制、リサイクル活動、資源の有効活用に努めます。
- 4 地域社会と連携し、環境保全活動の推進に努めます。
- 5 従業員一人ひとりが環境に配慮した取り組みの実践に努めます。

脱炭素社会の実現（省エネルギー・CO₂排出削減の取り組み）

● 太陽光発電設備の設置・稼働

オークワでは、2013年7月より太陽光発電設備の設置、稼働をスタートしました。2023年4月現在、稼働事業所は19か所にまで拡大しており、2022年度の年間発電量は約663万kwhとなっています。さらに、2023年度には中部電力ミライズと太陽光オフサイトPPA契約を締結し、年間発電量を約210万kwhの調達開始を見込んでいます。今後も再生可能エネルギーの活用拡大に向けた取り組みを推し進めていきます。



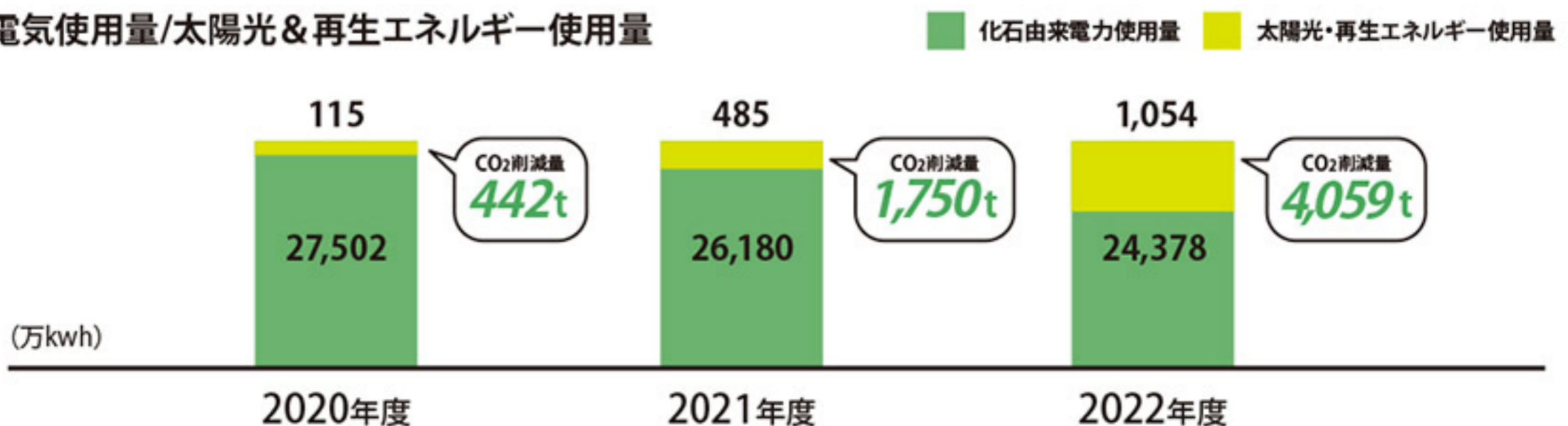
スーパーセンターオークワ多治見店屋上の太陽光パネル

● 再生可能エネルギーへの切り替え

太陽光発電設備の設置・稼働の取り組みに加えて、再生可能エネルギー電力の導入を進めています。2021年4月から「本社」・「本社中島店」で、関西電力が提供する「再エネ ECO プランプレミアム*1」を活用し、2019年11月より稼働の自家消費型太陽光発電所給電量と併せて、事業活動に使用する電力の100%を実質的に再生可能エネルギーで調達しています。

*1：発電時にCO₂を排出しない再生エネルギー電源（水力発電等）の環境価値を活用し、実質的に再生可能エネルギー100%の電気を使用することができる、関西電力株式会社が提供するサービスです。

電気使用量/太陽光&再生エネルギー使用量



節電の取り組み

● 省エネを見える化するシステムを導入

当社は、環境保全とコストの両面からより効率的に省エネができる方策を模索してきました。2019年、関西電力が提供する、電力の使用状況に適した省エネ方策を「見える化」するシステム「エナッジ」をまずは10店舗に導入しました。導入わずか2か月で顕著な電力使用量の削減をみることができ、2023年2月現在では138店舗に至っています。見える化の効果は、使用量だけにとどまらず、従業員の節電に対する意識改革につながっています。店舗で働く一人ひとりが省エネについて考え、率先して行動するようになってきました。

店舗用タブレット画面が
省エネ行動を応援!



店舗用画面イメージ

● 夏・冬の節電要請に対応

2022年度夏期（7月1日～9月30日）および冬期（12月1日～3月31日）、政府からの節電要請に伴い、全店舗および本社にて様々な節電を実施しました。店舗では、冷蔵ケースの電気を消す、壁面の間接照明を消す、天井照明を間引き調整するなど、商品の鮮度とお客様にご迷惑をお掛けしないことを担保した上で行いました。本社においては、共用廊下の空調全館停止、従業員エレベータの原則停止などの取り組みを実践。脱炭素社会の実現にもつながる本取り組みの一部は、要請期間外も継続実施しています。



店舗節電中 POP

環境保全活動

● 「友ヶ島クリーンアップ作戦」を実施

和歌山市の沖合に位置する友ヶ島は、豊かな自然と歴史遺産が残る人気スポットです。一方で、海流の関係もあり多くの海洋ごみが漂着し、問題になっています。その対策として2022年10月30日、和歌山県主催の元、和歌山市・和歌山海上保安部・オークワが協力して「友ヶ島クリーンアップ大作戦」が実施されました。参加者は、県公募の和歌山県内在住の大学生14名と、当社2022年度の新入社員25名。当日は2グループに分かれ、太平洋に面する孝助松海岸と大阪湾に面する池尻浜で清掃活動を行いました。漂着物の中には、海外のものらしきごみ、瀬戸内海のかき養殖に使われる用具などもあり、世界中のごみ問題の縮図であることが見てとれました。日頃からごみを出さない、捨てない、拾う意識を持ち実践することの大事さを学ぶ貴重な場になりました。



● 「海ごみゼロウィーク」に初参加

2022年6月19日、和歌山市磯ノ浦海岸にて「海ごみゼロウィーク」活動に初めて参加しました。このイベントは日本財団と環境省の共同事業で、全国一斉に開催される海岸清掃運動です。今回、日本水産株式会社（現 株式会社ニッスイ）のご協力を得て実施することができ、オークワからは34名が参加しました。海岸のごみ拾いを通して、海洋ごみの約8割は街から川を伝って海に流れ出したものであることを実感し、街でごみを出さない大切さを知ることができました。



● スポGOMI大会に参加

ごみ拾いとスポーツを融合したクリーンアップ運動として、国内外で開催され注目を集めている「スポGOMI大会」。和歌山県でも2016年から実施されており、オークワは環境保全活動の一貫として、社員有志が参加しています。2022年度は、6月25日かつらぎ町と12月4日みなべ町での「スポGOMI大会」に参加。地元の環境美化に貢献するとともに、環境保全について考える契機になりました。



資源循環の取り組み

● 寄付につながるペットボトルリサイクル

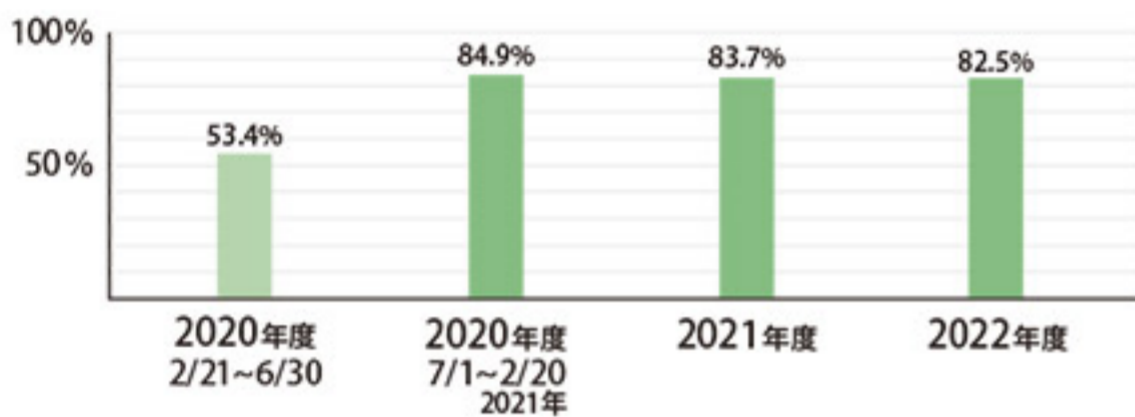
環境負荷軽減とリサイクル資源の有効活用に寄与することを目的に、店舗にて廃ペットボトルの回収を実施しています。さらに、プラスチックごみ問題の解決と炭素リサイクル実現のために、2021年10月から実験導入していた「ペットボトル回収機」は、2023年2月現在では41店舗まで拡大しました。店頭で回収機に投入されたペットボトルは、圧縮が行われます。これにより、通常よりも一度で多くのペットボトルを輸送できるので、配送回数を減らすことができ、配送で排出されるCO₂の削減にもつながります。また、ペットボトル回収機にて回収した廃ペットボトルの量に応じて、1本1円として集計し、当社負担にて「日本赤十字社」「赤い羽根共同募金会」へ寄付を行います。



● ペットボトル水平リサイクル

サントリー食品インターナショナル株式会社と協働し、オークワの大阪府下全19店舗に集められた使用済みペットボトルを回収して新たなペットボトルに生まれ変わらせる、「ボトルtoボトル」の水平リサイクルを2022年7月から開始しました。この取り組みは2021年に実験導入した「ペットボトル回収機」によりリサイクルスキームを確立することができ、スタートに至りました。環境負荷低減とリサイクル資源の有効活用により一層寄与できるよう、今後は当社が店舗展開する他府県でも実施できるよう努めてまいります。

● レジ袋辞退率



● 食品トレーの回収とエコトレーの使用

回収ボックスを店頭で設置し、食品トレーの回収を行っています。また、回収トレー等からつくられたエコトレー・エコAPETを採用し、食品トレーリサイクルの取り組みに協力し、CO₂排出削減に取り組んでいます。

● リサイクル資源店頭回収

牛乳パック、食品トレー、ペットボトルを随時回収するボックスを店頭で設置。お客様にエコ活動を意識していただく啓発にもつながっています。



● リサイクルでポイントが貯まる ecoひろば・エコぽす

オークワでのお買い物ついでに新聞紙などをリサイクルでき、しかもポイントが貯まる古紙回収機を設置。紙類の資源回収も積極的に取り組んでいます。ecoひろば17店舗、エコぽす24店舗に設置しています。(2023年2月現在)



食品ロス削減の取り組み

● 和歌山県下の子ども食堂にお米を寄贈

食品ロス削減と子どもたちへの支援を目的として、オークワと社会福祉法人和歌山県社会福祉協議会（以下「県社協」）は、「和歌山県における地域福祉活動の推進に係る連携・協力に関する協定」を締結しました。その活動の一環として、社内販売期限を迎えた精米を県社協に寄贈。県社協より和歌山県内の子ども食堂や児童福祉施設へ届けるリレーを行っています。

● 「てまえどり」を推進

「てまえどり」とは、購入してすぐに食べる場合は、商品棚の手前にある商品など、販売期限の迫った商品を積極的に選ぶ買い方で、食品ロス削減につながる消費者にもできる行動です。オークワはこの取り組みに賛同し、お客様に「てまえどり」を知っていただけるよう、10月の食品ロス削減月間に合わせて、各店舗で啓発ポスターやPOPの掲示を行い、継続して認知向上に努めています。

2022年度お米寄贈量 **2,532kg**

気候変動への取り組み

TCFD 提言への対応

G20 金融安定化理事会が設置した「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」により提言された枠組みに基づき、気候変動シナリオ分析を行いました。気候変動が事業にもたらすリスク・機会を明確にし、リスクの軽減やCO₂削減に向けて取り組みます。

● ガバナンス

気候変動への対応を含むサステナビリティ全般を取り扱う「サステナビリティ推進委員会」を設置し、重要課題の解決に施策等の進捗を管理し、議論の内容を「取締役会」へ報告しています。また、必要に応じて開催される「執行役員会」への付議も行います。当委員会には、5つの分科会を設置しています。

	委員会・分科会名	目標設定と進捗確認事項
委員会	サステナビリティ推進委員会	
	分科会	
分科会	環境・廃プラ対策推進分科会	リサイクル、排出量削減、資源循環、使用料削減等の施策
	地域社会共創分科会	社会福祉活動、地域支援、活性化、寄付・援助等の施策
	食品ロス・安全性対策分科会	食品廃棄物の削減、製品の安全性・品質向上等の施策
	エネルギー・災害対策分科会	気候変動、再生エネルギー、水道・ガス、災害対策・老朽化インフラ対策等の施策
	人権・ダイバーシティ対策分科会	人権、女性、ワークライフバランス等の(健康経営)の施策
事務局	サステナビリティ推進室	

※ガバナンス体制については26ページをご参考ください。

● 戦略

気候変動がもたらす異常気象などの「物理リスク(4℃シナリオ)」、政策規制の導入および市場のニーズの変化などの「移行リスク(1.5℃シナリオ)」についてシナリオ分析を使用し、4段階の検討プロセスにより、リスクと機会の分析と評価を行い、当社事業に反映しています。

シナリオ分析の
検討プロセスの4段階

シナリオ群の定義

気候変動関連リスク
に対する重要度評価

事業インパクト評価

対応策の定義

当社スーパーマーケット事業における気候変動関連のリスクと機会

リスク/機会	カテゴリ	外部循環の変化	事業への影響	財務インパクト※		リスク・機会の大きさ (影響度×発生可能性)	
				1.5℃シナリオ	4℃シナリオ	1.5℃シナリオ	4℃シナリオ
物理リスク	急性	異常気象の激甚化	店舗・工場・物流施設への被害による損害	高		大	
			被災による一定期間通常営業困難による損失	高		大	
移行リスク	政策・法規制	カーボンプライシングの導入	スコープ1,2に対する炭素税が課税されることによる負担増	高	低	大	小
			原材料や仕入れコストの増加	高		大	小
		省エネ規制の強化	省エネ設備導入等の設備投資の増加	高	高	大	大
		代替フロン規制の強化	フロン使用規制への対応費用の増加 (自然冷媒機器への転換)	高	高	大	中
機会	市場	エネルギー価格の上昇	電力小売価格上昇によるコスト増加	高	低	大	小
			原材料や仕入れ商品のコストの増加	中	低	大	大
機会	資源の効率性	DXの推進	DXを通じた需要予測・廃棄削減によるコストの削減	中	低	大	小
	市場	再エネの普及拡大	再生可能エネルギー設備の導入による電気料金の低減	低	低	中	小
	製品・サービス	消費者嗜好・行動の変化	サステナブルなプライベートブランド(PB)商品や認証商品の売上増加による収益増	低	低	小	小

※財務インパクトの影響度は下記の基準で3段階に区分しています。

財務(営業利益への)インパクト：高 ±10億円以上 / 中 ±1~10億円未満 / 低 ±1億円未満

● リスクマネジメント

リスクマネジメントを、責任を持って取り組むべき重要な経営課題であると位置づけ、「コンプライアンス委員会」において、全社の重要な事業リスクの把握と管理、統括する体制を整えています。当委員会は四半期に1回開催し、問題の抽出および対策の検討を行い、重要な審議結果については「取締役会」に報告しています。気候変動に関するリスクについては、議長の招集に応じて「サステナビリティ推進委員会」が参加し、課題解決の進捗等を報告しています。

～リスクマネジメント基本方針～

当社グループがリスクマネジメントに積極的かつ持続的に取り組み、事業を継続させることは、すべてのステークホルダーと地域社会への貢献に大きく寄与するものと捉え、グループをあげて取り組みます。

- ①当社グループに求められる社会的責任を果たすために、危機の未然防止の徹底を図り、リスクの組織的な監視に努めます。
- ②重大な影響をもたらすリスクが顕在化した場合は、迅速な組織対応と情報開示により、影響の極小化と再発防止に努め、社会信頼の維持と回復に努めます。
- ③リスクマネジメントを経営の重要課題と認識し、社会の要求に応えるマネジメントレベルを実現するため、リスクマネジメントシステムの継続的改善に努めます。

● 指標と目標

気候変動に伴う変化を事業機会として捉え、リスク軽減にむけた戦略を展開し、特に再生エネルギー調達の拡大により、脱炭素社会の構築に取り組んでまいります。

事業活動に伴う GHG の排出目標

	2025年度目標	2030年度目標
事業活動に伴う排出 (Scope1,2)	40%削減(2017年度比)	50%削減(2017年度比)
サプライチェーンにおける排出 (Scope3)	未算出 ※調査、算出が必要	未算出 ※調査、算出が必要

※詳細をご希望の方はオークワホームページをご覧ください。
<https://www.okuwa.net/eco/>

魅力ある職場づくり



働きがいと働きやすさの実現に向けて

人材は、最大の経営資源です。従業員の誰もが仕事を通じて自己実現を叶えられるようスキルアップ強化に加え、多様な価値観をもつ従業員一人ひとりが働きやすく、個人の能力を十分に発揮できる環境や仕組みづくりに取り組んでいます。

人権基本方針

オークワの役職員及び全てのパートナー、アルバイト全員が、人権への理解を深めこの基本方針に基づき、人権が尊重される社会の実現を目指すため、以下の基本方針を定めています。

1 人権に関する基本的な考え

国際連合の「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づき、「国際人権章典」及び「労働における基本原則及び権利に関するILO宣言」等の人権に関する国際規範を支持・尊重し、実践していきます。

2 人権デューデリジェンスの実施

事業活動をする中で、社内はもとよりそのサプライチェーン上の人権への負の影響を特定するため、人権デューデリジェンスの仕組みを構築及び実践するように努めます。オークワの活動が人権への負の影響を引き起こしたと、または助長したことが明らかになった場合には、そのような影響を防止し、または軽減するように努めます。

ダイバーシティの推進

● 障がい者雇用

現在254名の障がい者の方が店舗や工場、センターなどで仕事に従事しています。障がい者雇用率は2.41%で、法定雇用率をクリアしています。

● 女性の活躍

現在、経営職の女性は31名おり、女性管理職比率は2.0%（昨対0.1%増）になっています。右頁の研修や男女ともに育児休暇取得の促進を行い、女性が活躍しやすい職場づくりに努めています。女性管理職の活躍が良きロールモデルとなり、女性がオークワで働くモチベーションアップにつながっていくと考えています。また、女性ならではの意見や視点を取り入れることによって、多様化するニーズに対応し、お客様から支持される店舗運営を推進していきます。特に今年度はバイヤーに女性を複数登用し、「女性目線」「サステナブル」を意識した商品の導入や売り場づくりを実施しました。



● 外国人技能実習生の受け入れ

現在52名が、オーデリカファクトリーで製造の技術や知識を学んでいます。また、今年度より店舗での実習生も受け入れを開始し、15名が実習を受けています。

女性バイヤーによる売場づくり例

女性目線ならではの可愛く華やかな装飾で、お客様の目を引く売り場づくりをしています（メッサオークワ岩出店）。2ヵ月ごとに季節やイベントに合わせた商品展開をすることで、飽きる事のない売り場とし、お買い物を楽しんでいただいています。



人材育成

● 経営幹部育成研修

将来の経営幹部の育成をスタートさせました。社員の中から20名(うち女性4名)を選抜し、戦略的マネジメントとリーダーシップのあり方を約2年かけて教育していきます。

● 女性活躍推進研修

将来経営職を目指す意思のある女性社員(20代~40代)75名を対象に、必要となる対人間関係能力と問題解決能力について教育を行っています。また、男性社員を対象に、世の中と当社の女性活躍の現状を伝え、女性社員の育成方法についてセミナーを実施します。



● 既存社員に向けたビジネススクール

業務で必要となるビジネススキル、小売業に特化した売場作りの原理原則等についての教育を社内でビジネススクールとして開催しています。その他にも、年次研修や産地研修、外部のコンサルタントを招いて技術や知識を高める専門研修などを行っています。

● 新入社員研修

店舗配属後の教育を円滑かつ平均化するべく、部門配属後の集合研修を昨年度よりも更に時間を増やして実施しました。また、教育進捗チェック表を基に項目ごとに教育資料を再度作成し各部門ごとの教育指導の平準化する仕組みを構築しています。新入社員は部門配属後、各部門にわかれ専門的な知識や技術を身につけて店舗に配属されます。



● 教育推進室の活動

お客様の要望に応えるサービスおよび商品の提供ができる従業員の育成を目的とし、2020年に教育推進室を新設しました。部門ごとの専門知識や技術習得ができるよう、経験年次に合わせた教育内容を立案、指導しています。集合教育は、本社隣接の研修センターを活用し、個別教育は店舗にて教育体制を確立しています。



従業員の暮らし、健康をサポート

● 健康経営優良法人2023に認定

2023年3月8日、経済産業省と日本健康会議が主催する『健康経営優良法人』において、当社の社員の健康を経営的な視点で捉えた取り組みが認められ、「健康経営優良法人2023」に認定されました。今後も従業員が健全にいきいき働き続けられる職場、環境づくりを目指して、健康に関して積極的な関与を行い、従業員のパフォーマンスを今以上に向上させていきたいと考えています。



● 福利厚生倶楽部

2022年9月に、福利厚生サイト「オークラブ」がサービス内容をアップグレードして「福利厚生倶楽部」として生まれ変わりました。グルメや旅行、レジャー施設などの割引利用だけでなく、無料で受講できるE-ラーニングや育児や転居、資産運用のサポートまで対応しています。家族も登録でき、以前より利用しやすくなったと好評を得ています。

● 健康診断

従業員の身体と心の健康のサポートを行うため、正社員だけでなくパート社員全員を対象に健康診断を実施しています。また、生活習慣病予防健康診断の補助金制度を設け、受診率の向上に努めています。

ガバナンス

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスに関する基本方針

経営環境の変化に迅速に対応できる組織体制を構築し、上場企業として公正かつ透明性をもって経営を行うことをコーポレート・ガバナンスの基本的な方針としています。

コーポレート・ガバナンス体制

● 取締役会

経営上の最高意思決定機関である取締役会を毎月1回開催(必要に応じて臨時取締役会も開催)しています。取締役会は、取締役12名(うち監査等委員である取締役5名)により構成され、客観性・透明性の確保を図っています。取締役会は、知識、経験および能力等のバランスに配慮しつつ、女性取締役や国際性を有する取締役の必要性も踏まえ、適切と思われる人員で構成することを基本としております。

● 監査等委員会

監査等委員会は、監査等委員である取締役5名(うち社外取締役4名)により構成され、幅広い視野および客観的な立場から経営や業務執行の監督・牽制を果たすべく監査等に関する重要な事項について報告を受け、協議を行い又は決議しております。

● サステナビリティ推進委員会

環境・社会に関する課題解決を経営上の重点課題のひとつと位置付け、社長を委員長とする「サステナビリティ推進委員会」を設置し、取締役会の諮問機関として協議を行っています。気候変動に関する重要課題(マテリアリティ)の解決に向けて、5つの分科会における活動状況を統括し、年1回以上の報告を受ける体制となっています。

● オークワ倫理ホットライン(内部通報制度)

法令遵守と企業倫理の確立のための制度として2003年2月21日に「オークワ倫理委員会」を発足させ、「倫理委員会 運営規程」の制定と「オークワ倫理ホットライン」を設立し、オークワ全従業員を対象とした内部通報制度を施行し、コンプライアンス経営の推進を図っています。内部通報制度は、企業不祥事に発展しかねない行為を早期発見し、是正する自浄作用を働かせるための制度です。通報の対象は、法令・規則や各諸規定に反する行為にとどまらず、オークワのブランドを傷つける行為も対象となります。受け取った通報については「オークワ倫理委員会」にて真相究明のための調査を行った上で、適切な是正措置を講じます。また、通報する従業員等がいかなる不利益も受けないように制度を整備しています。当社は、流通小売業という性格上、違法・不正行為が、地域のお客様の生活に直接不利益を及ぼすことを常に意識し、日々の営業活動を行っています。

● 内部監査室

社内には、社長直属として内部監査室を設置しており、当社ならびに子会社に対する業務監査と会計監査ができる体制になっています。

● 経営会議

代表取締役を含めた業務執行取締役と常勤監査等委員、執行役員および議長(代表取締役)が指名する担当部室長による経営会議を毎週1回開催しています。週ごとの販売実績や計画状況の確認と、業務全般に関する取り組み事項について報告がなされ、効果的な業務推進を図っています。

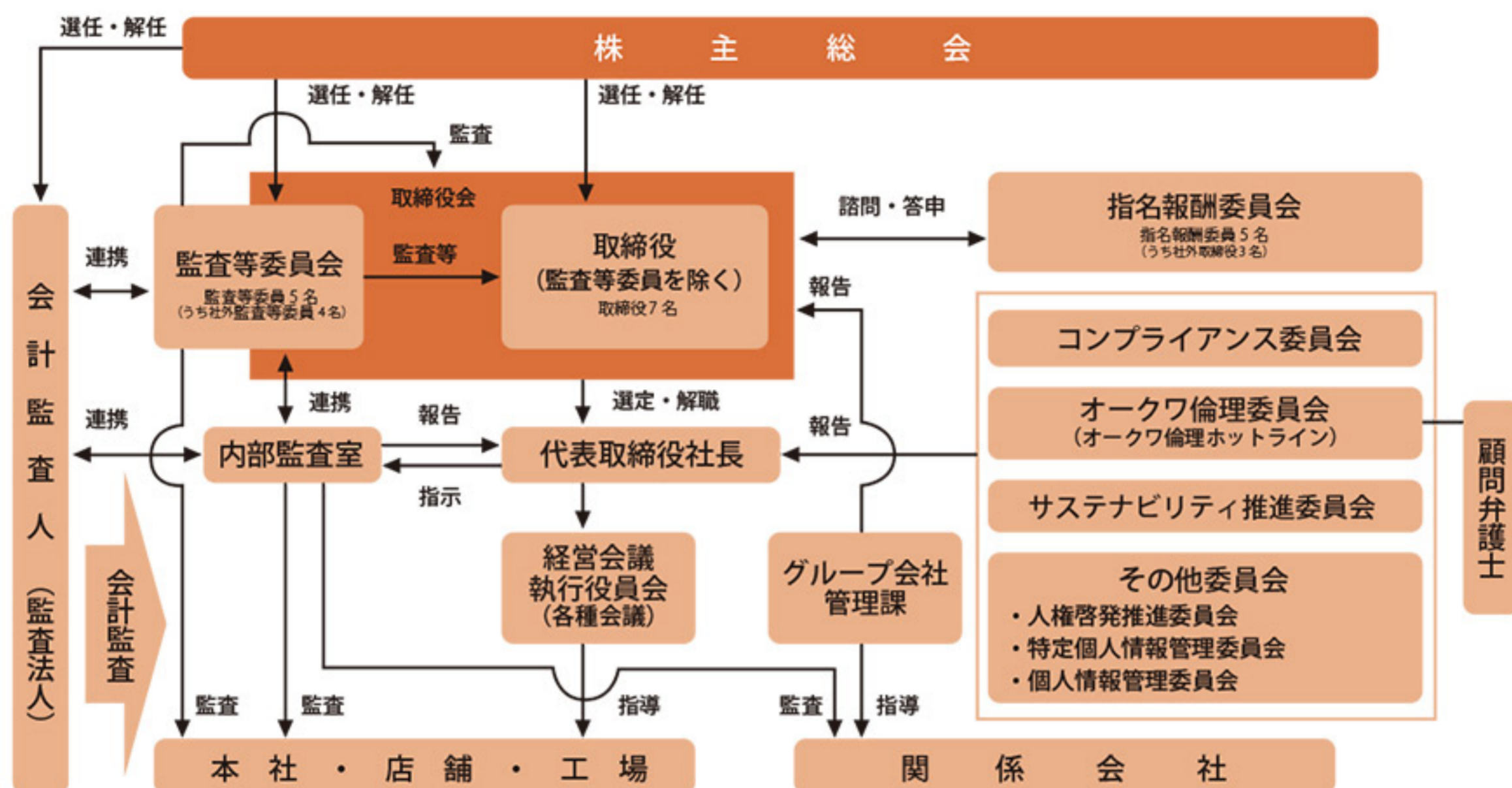
● コンプライアンス委員会

社長を委員長とした「コンプライアンス委員会」を設置し、企業活動の中で起こりうる様々な経営リスクを回避しています。さらに、内部統制・リスク管理体制・内部監査体制に関する事項を審議し、決定する機能も果たしています。

・倫理ホットライン 組織体制図



●コーポレート・ガバナンス体制



●取締役の実効性評価

取締役会の実効性に関する自己評価を少なくとも年1回行い、その結果を取締役会で分析・評価します。

アンケート

直近では2023年3月に取締役会の構成員である全取締役を対象にアンケートを実施しました。回答・集計は、外部機関を活用することで匿名性を確保し、個々の意見を求めやすい方法で実施しています。

評価・結果分析

集計結果を踏まえ、2023年5月の取締役会においてアンケートの回答に基づき、実効性が確認されている項目と課題と考える項目を認識しております。前年から監査等委員会設置会社へ移行し、ガバナンス強化を図っていること、および指名報酬委員会設置により、一層の透明性の確保が出来ていることが確認されました。

課題

取締役会の機能発揮につながる多様性の確保について計画的に進めていく事の重要性を再認識しています。また、資本コストや資本収益性について、より一層議論を深めていく必要性を確認しました。評価結果を踏まえ、今後、課題解決に向けた取り組みを進め、取締役会の機能の強化を努めるとともに、ガバナンス体制の拡充を図ってまいります。

リスクマネジメント

●個人情報保護に関する取り組み

個人情報保護法に関しては、「個人情報管理委員会」を設置し、「情報管理規程」にて情報管理体制を構築し、従業員には「個人情報保護ポケットマニュアル」を配布し、周知徹底を図っています。

●災害時の取り組み

天災その他の危機管理体制については、「緊急対策マニュアル」を従業員に配布し、発生時の対応、ルールを徹底し、緊急時情報通信連絡網により即座に経営トップをはじめ、各取締役等の経営幹部に情報の伝達・報告・指示を行える体制をとっています。また、地震・津波等の天災対策としては、全社的防災教育および年4回の想定訓練を企画・実施しています。

●店舗で発生する事件・事故に関する取り組み

日常的に発生する各店舗の事件・事故等には、「事件・事故報告」等の社内グループウェアにより、迅速に対応・解決ができる体制をとっています。

ESG データ集

人材・社員に関するデータ Employees/Human Capital

人員構成 Personnel and Composition									
大項目 Category	小項目 Sub-category	単体/連結 Boundary	単位 Unit	2019年2月期 FY2/2019	2020年2月期 FY2/2020	2021年2月期 FY2/2021	2022年2月期 FY2/2022	2023年2月期 FY2/2023	
社員 Members (employees)	人数 Number of employees	男 Male	連結 Group	人 Persons	1,625	1,631	1,634	1,637	1,609
		女 Female	連結	人	385	411	440	476	519
		計 Total	連結	人	2,010	2,042	2,074	2,113	2,128
	男女比 gender composition	男 Male	連結	%	80.8	79.9	78.8	77.5	75.6
		女 Female	連結	%	19.2	20.1	21.2	22.5	24.4
	人数 Number of employees	男 Male	単体 Non-consolidated basis	人 Persons	1,497	1,512	1,527	1,526	1,548
		女 Female	単体	人	361	374	399	422	470
		計 Total	単体	人	1,858	1,886	1,926	1,948	2,018
	男女比 gender composition	男 Male	単体	%	80.6	80.2	79.3	78.3	76.7
		女 Female	単体	%	19.4	19.8	20.7	21.7	23.3
	平均勤続年数 Average years of service	男 Male	単体	年 Years	19.2	19.7	20.2	19.5	19.3
		女 Female	単体	年	13.0	13.0	13.0	12.6	11.7
		計 Total	単体	年	18.1	18.4	18.5	18.1	17.6
	平均年齢 Average age	男 Male	単体	歳 age	48.3	48.7	49.0	48.7	48.9
		女 Female	単体	歳	42.5	42.3	42.0	41.2	40.5
		計 Total	単体	歳	47.3	47.5	47.5	47.3	47.0
	パートタイム 従業員数 Number of part-time employees	男 Male	単体	人 Persons	1,159	1,174	1,197	1,209	1,246
		女 Female	単体	人	6,805	6,797	6,852	6,778	6,810
計 Total		単体	人	7,963	7,971	8,049	7,987	8,056	
社員への登用人数 Numbers of those promoted to the s status of full-time employees	男 Male	単体	人	10	4	6	5	5	
	女 Female	単体	人	8	4	5	2	13	
	計 Total	単体	人	18	8	11	7	18	
障がい者雇用者数 Number of employees with disabilities		単体	人	198	204	197	229	252	
障がい者雇用率 % of employees with disabilities		単体	%	2.25	2.44	2.31	2.33	2.42	
外国人技能実習生 受入人数 Foreign technical intern trainee receiving	男 Male	単体	人 Persons	0	0	0	0	0	
	女 Female	単体	人	3	34	49	48	67	
	計 Total	単体	人	3	34	49	48	67	
女性社員比率 % of female members		単体	%	19.4	19.8	20.7	21.7	23.3	
女性管理職数 ※1 Number of female members in managerial positions		単体	人 Persons	1	1	1	1	2	
女性リーダー数 ※2 Number of female leaders		単体	人 Persons	8	6	6	7	8	
		単体	%	3.4	2.7	2.7	3.1	3.5	
役職者数 Number of members with job titles	執行役員(取締役除く) Executive officers	男 Male	単体	人 Persons	1	1	4	1	4
		女 Female	単体	人	0	0	0	0	0
	部長以上(執行役員除く) Departmental heads or above	男 Male	単体	人	16	16	17	20	21
		女 Female	単体	人	0	0	0	0	1
課長以上 Managerial positions	男 Male	単体	人	226	215	215	217	218	
	女 Female	単体	人	8	6	6	6	8	

※1 「女性管理職数」：部長職以上の管理職、執行役員・取締役を含む ※2 「女性リーダー数」：課長職以上の管理職

年代別社員数 Number of members(employees) by age group							単体 Non-consolidated basis	
	年代 Age	男性 Male		女性 Female		合計 Total		
		単位 人	%	人	%	人	%	
2022年2月期末時点 As of the end of FY2/2022	30歳未満 Under30	139	7.1	128	6.6	267	13.7	
	30～39	162	8.3	40	2.0	202	10.3	
	40～49	372	19.1	89	4.6	461	23.7	
	50～59	604	31.0	134	6.9	738	37.9	
	60以上 60or older	249	12.8	31	1.6	280	14.4	
	合計 Total	1,526	78.3	422	21.7	1,948	100.0	
2023年2月期末時点 As of the end of FY2/2023	30歳未満 Under30	154	7.6	173	8.6	327	16.2	
	30～39	144	7.1	39	2.0	183	9.1	
	40～49	353	17.5	77	3.8	430	21.3	
	50～59	644	31.9	140	6.9	784	38.8	
	60以上 60or older	253	12.6	41	2.0	294	14.6	
	合計 Total	1,548	76.7	470	23.3	2,018	100.0	

採用 Recruitment								
大項目 Category	小項目 Sub-category	単体 / 連結 Boundary	単位 Unit	2019年2月期 FY2/2019	2020年2月期 FY2/2020	2021年2月期 FY2/2021	2022年2月期 FY2/2022	2023年2月期 FY2/2023
新規(学卒者採用者数) Number of new recruits	男 Male	単体 Non-consolidated basis	人 Persons	27	30	27	26	33
	女 Female	単体	人	28	36	38	26	60
	計 Total	単体	人	55	66	65	52	93
	女性比率 % of female members	単体	%	50.9	54.5	58.5	50.0	64.5
3年後在籍率 Of which, the retention ratio three years after recruitment	男 Male	単体	人 Persons	23	27	26	-	-
	女 Female	単体	人	18	25	22	-	-
	計 Total	単体	人 %	42	52	48	-	-
				76.9	78.8	76.2	-	-
中途採用者 Number of members recruited mid-career	男 Male	単体	人 Persons	36	25	23	32	24
	女 Female	単体	人	11	9	9	11	5
	計 Total	単体	人	47	34	32	43	29
	女性比率 % of female members	単体	%	23.4	26.5	28.1	25.6	17.2
社員離職者数 No. of members who left the company mid-career	男 Male	単体	人 Persons	70	56	49	64	95
	女 Female	単体	人	23	40	29	19	36
	計 Total	単体	人	93	96	78	83	131
定年再雇用希望者 Members who wish to be reemployed after the mandatory retirement age		単体	人	41	27	24	25	37
希望者のうち採用者数 Number of members who were employed		単体	人	41	27	24	25	37
定年再雇用率 Ratio of reemployment rate after mandatory retirement age		単体	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

報酬 Compensation								
大項目 Category	単体 / 連結 Boundary	単位 Unit	2019年2月期 FY2/2019	2020年2月期 FY2/2020	2021年2月期 FY2/2021	2022年2月期 FY2/2022	2023年2月期 FY2/2023	
社員の給与及び手当の総額 Total of members' salary and benefits ※賞与を含む年間給与平均額	単体 Non-consolidated basis	千円 thousand Yen	4,973	5,038	5,253	5,370	5,129	

労働安全衛生 Health and Safety								
大項目 Category	小項目 Sub-category	単体 / 連結 Boundary	単位 Unit	2019年2月期 FY2/2019	2020年2月期 FY2/2020	2021年2月期 FY2/2021	2022年2月期 FY2/2022	2023年2月期 FY2/2023
労働災害者数 Number of work-related ※重症:休業4日以上、軽度:休業4日以内	死亡 Death	単体 Non-consolidated basis	人 Persons	0	0	0	0	0
	重度 Severe	単体	人	60	59	59	58	55
	軽度 Mild	単体	人	138	158	111	120	135
退職者・長期欠勤者 Employees on leave or long-term absence	人数 Number of employees	単体	人	56	37	61	47	72
	うちメンタルヘルス不調 Mental health disorder	単体	人	9	12	21	10	15
	メンタルヘルス以外の疾病 Diseases other than mental health	単体	人	47	15	40	37	57

両立支援・働き方改革 Work-family balance support, "work style reform"								
大項目 Category	小項目 Sub-category	単体 / 連結 Boundary	単位 Unit	2019年2月期 FY2/2019	2020年2月期 FY2/2020	2021年2月期 FY2/2021	2022年2月期 FY2/2022	2023年2月期 FY2/2023
有給休暇付与日数 Number of paid holidays given		単体 Non-consolidated basis	日 days	18.3	18.3	18.2	18.1	18.1
有給休暇取得日数 Number of paid holidays taken & %		単体	日	6.8	8.2	9.4	9.6	10.1
			%	37.0	44.7	51.2	52.7	56.3
産休取得者数(社員) Number of employees who took maternity leave	期中合計 Mid-term total	単体	人 Persons	3	1	5	5	4
	期末日現在 As of the end of the term	単体	人	1	0	1	2	4
育児休業取得者数(社員) Number of employees who took childcare leave	期中合計 Mid-term total	単体	人	4	3	7	9	14
	期末日現在 As of the end of the term	単体	人	2	2	4	4	6
同 男女別内訳 Breakdown by gender	男 Male	単体	人	1	0	1	2	6
	女 Female	単体	人	3	3	6	7	8
	計 Total	単体	人	4	3	7	9	14
同 取得後復職率 Ratio of employees who returned to work after taking childcare leave	男 Male	単体	%	100.0	-	100.0	100.0	100.0
	女 Female	単体	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	計 Total	単体	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※個別の注釈があるものを除き、原則、各期末日時点(決算日 2/20)または通期(2/21~翌年 2/20)の数値情報となっております。

労働時間・生産性 Working Hours and Productivity

大項目 Category	単体 / 連結 Boundary	単位 Unit	2019年2月期 FY2/2019	2020年2月期 FY2/2020	2021年2月期 FY2/2021	2022年2月期 FY2/2022	2023年2月期 FY2/2023
年間総労働時間(従業員1人当たり) Total annual working hours (Per employee)	単体 Non-consolidated basis	時間 / 年 hours/year	2,168	2,166	2,113	2,115	2,093
平均月間総労働時間(従業員1人当たり) Average total monthly working hours	単体	時間 / 月	181	181	176	176	174
平均残業時間(従業員1人当たり) Average overtime hours (Per employee)	単体	時間 / 月	8.2	8.7	6.8	7.8	7.8

ガバナンスに関するデータ
Governance

役員関連情報 Information on Officers

大項目 Category	小項目 Sub-category	単体 / 連結 Boundary	単位 Unit	2019年2月期 FY2/2019	2020年2月期 FY2/2020	2021年2月期 FY2/2021	2022年2月期 FY2/2022	2023年2月期 FY2/2023
社外役員比率 (取締役、監査役合算) Ratio of outside officers %		単体 Non-consolidated basis	%	25.0	26.7	25.0	25.0	33.3
取締役の平均年齢 Average age of directors		単体	歳 age	63.6	64.4	62.9	63.8	68.1
取締役(社内)の平均年齢 Average age of directors (internal)		単体	歳	62.6	63.7	61.3	62.6	67.3
監査役の平均年齢 Average age of audit & supervisory board members		単体	歳	73.3	68.8	69.7	70.5	-
取締役任期 Term of office of directors		単体	年 Years	1	1	1	1	1 ※監査等委員は2年
監査役任期 Term of office of audit & supervisory board members		単体	年	4	4	4	4	-
取締役会 Board of Directors	員数 Members	単体	人 Persons	16	15	16	16	12
	開催回数 Number of meetings held	単体	回 Times	14	14	13	14	14
	出席率 Attendance ratio	単体	%	95.2	91.7	99.3	99.5	99.5
	出席率(社外取締役) Attendance ratio(outside directors)	単体	%	100.0	100.0	100.0	100.0	98.2
	出席率75%以下の取締役 Members with 75% or less attendance	単体	人 Persons	1	1	0	0	0
監査役会 ※1 Audit & Supervisory Board	員数 Members	単体	人 Persons	4	4	4	4	-
	開催回数 Number of meetings held	単体	回 Times	16	18	17	17	-
	出席率 Attendance ratio	単体	%	95.3	100.0	97.1	100.0	-
	出席率(社外監査役) Attendance ratio(outside audit & supervisory board members)	単体	%	100.0	100.0	94.1	100.0	-
	出席率75%以下の監査役 Members with 75% or less attendance	単体	人 Persons	0	0	0	0	-
取締役監査等委員 ※1 Director Audit & Supervisory Committee Members	員数 Members	単体	人 Persons	-	-	-	-	5
	監査等委員会 開催回数 Number of meetings held	単体	回 Times	-	-	-	-	12
	出席率 Attendance ratio	単体	%	-	-	-	-	100.0
	出席率(社外監査等委員) Attendance ratio(outside audit & supervisory committee members)	単体	%	-	-	-	-	100.0
	出席率75%以下の監査等委員 Members with 75% or less attendance	単体	人 Persons	-	-	-	-	0

※1：2022/5/12開催の第53回株主総会において、監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行決議されました。

委員会等 Committees, etc.

大項目 Category	小項目 Sub-category	単位 Unit	2019年2月期 FY2/2019	2020年2月期 FY2/2020	2021年2月期 FY2/2021	2022年2月期 FY2/2022	2023年2月期 FY2/2023
経営会議 Management Meetings	開催回数 No. of meetings	回 Times	毎週 every week	毎週 every week	毎週 every week	毎週 every week	毎週 every week
コンプライアンス 委員会 Compliance Committee	委員数 Members	人 Persons	12	10	10	14	12
	開催回数 No. of meetings	回 Times	4	4	4	4	4
サステナビリティ 推進委員会 Sustainability promotion Committee	委員数 Members	人 Persons	-	-	-	-	7
	開催回数 No. of meetings	回 Times	-	-	-	-	1
指名報酬委員会 Nomination and Compensation Committee	委員数 Members	人 Persons	-	-	-	-	5
	開催回数 No. of meetings	回 Times	-	-	-	-	2
執行役員会 Operating Officer Meeting	委員数 Members	人 Persons	13	10	11	11	8
	開催回数 No. of meetings	回 Times	12	8	7	7	7

※個別の注釈があるものを除き、原則、各期末日時点(決算日2/20)または通期(2/21～翌年2/20)の数値情報となっております。

環境に関するデータ

Environment

方針等の有無
Existence or Non-Existence of Policy, etc.環境方針
Environmental Policyあり
Yes「環境基本方針」
<https://www.okuwa.net/eco/policy.html>

気候変動 Climate Change								
大項目 Category	小項目 Sub-category	単体 / 連結 Boundary	単位 Unit	2019年2月期 FY2/2019	2020年2月期 FY2/2020	2021年2月期 FY2/2021	2022年2月期 FY2/2022	2023年2月期 FY2/2023
CO2排出量 CO2 Emissions	Scope 1	単体 Non-consolidated basis	t-CO2	11,979	12,790	14,768	14,860	13,366
		連結 Group	t-CO2	-	-	-	-	13,885
	Scope 2	単体	t-CO2	139,785	125,236	106,414	97,094	91,726
		連結	t-CO2	-	-	-	-	94,956
	計 Total	単体	t-CO2	151,764	138,026	121,182	111,954	105,092
		連結	t-CO2	-	-	-	-	108,841
エネルギー使用量 Energy Consumption	電力使用量 Electricity Used	単体	GJ	1,003,762	1,005,871	990,074	942,483	877,481
		連結	GJ	-	-	-	-	909,604
		単体	千kWh thousands of kWh	278,823	279,409	275,021	261,801	243,745
		連結	千kWh thousands of kWh	-	-	-	-	252,668
	再生可能エネルギー使用量 Renewable Energy Used	単体	GJ	-	-	-	11,799	23,739
		連結	GJ	-	-	-	-	23,739
		単体	千kWh thousands of kWh	-	-	-	3,278	6,594
		連結	千kWh thousands of kWh	-	-	-	-	6,594
	太陽光発電使用量 Solar Power Energy Used	単体	GJ	-	1,116	4,133	5,671	14,363
		連結	GJ	-	-	-	-	14,363
		単体	千kWh thousands of kWh	-	310	1,148	1,575	3,990
		連結	千kWh thousands of kWh	-	-	-	-	3,990
	ガス使用量（都市ガス） Natural Gas Used	単体	m ³	2,472,386	2,373,088	2,221,359	2,095,207	1,669,007
		連結	m ³	-	-	-	-	1,720,213
	ガス使用量（LPG） Natural Gas Used	単体	m ³	918,126	954,643	1,390,634	1,416,176	1,367,663
		連結	m ³	-	-	-	-	1,431,705
ガソリン使用量 Petrol Used	単体	ℓ	算出不能	275,389	241,520	251,596	248,252	
	連結	ℓ	-	-	-	-	257,845	
重油使用量 Heavyoil Used	単体	kl	165	236	222	226	200	
	連結	kl	-	-	-	-	200	
灯油使用量 Kerosene Used	単体	kl	222	219	149	224	141	
	連結	kl	-	-	-	-	141	
	計 Total	単体	GJ	218,275	229,729	262,738	262,936	234,754
		連結	GJ	-	-	-	-	243,861
水 Water								
大項目 Category	単体 / 連結 Boundary	単位 Unit	2019年2月期 FY2/2019	2020年2月期 FY2/2020	2021年2月期 FY2/2021	2022年2月期 FY2/2022	2023年2月期 FY2/2023	
店舗水資源使用量 Store Water Used	単体 Non-consolidated basis	m ³	1,212,009	1,180,965	1,100,008	1,047,956	960,763	
工場センター水資源使用量 Factory Center Water Used	単体	m ³	647,507	613,542	624,731	657,249	645,793	
水資源使用量 合計 Total Water Used	単体	m ³	1,859,516	1,794,507	1,724,739	1,705,205	1,606,556	
	連結 Group	m ³	-	-	-	-	1,685,451	
資源と廃棄物 Resources and Waste								
大項目 Category	単体 / 連結 Boundary	単位 Unit	2019年2月期 FY2/2019	2020年2月期 FY2/2020	2021年2月期 FY2/2021	2022年2月期 FY2/2022	2023年2月期 FY2/2023	
廃棄物排出量 Total Waste	単体 Non-consolidated basis	t	14,800	12,179	11,989	11,875	11,754	
	連結 Group	t	-	-	-	-	11,970	
廃棄物リサイクル量 Waste Recycled	単体	t	4,118	3,899	3,971	4,128	4,003	
	連結	t	-	-	-	-	4,010	
再資源化・リサイクル率 % of Recycled Materials	単体	%	27.8	32.0	33.1	34.8	34.1	
	連結	%	-	-	-	-	33.5	
最終処分量 Waste Sent to Landfills	単体	t	10,682	8,279	8,018	7,746	7,752	
	連結	t	-	-	-	-	7,959	
コンプライアンス（環境関連） Compliance (Environment)								
大項目 Category	単体 / 連結 Boundary	単位 Unit	2019年2月期 FY2/2019	2020年2月期 FY2/2020	2021年2月期 FY2/2021	2022年2月期 FY2/2022	2023年2月期 FY2/2023	
環境法令違反件数 Number of Environmental Fines and Penalties	単体	回	0	0	0	0	0	
	連結	violations	0	0	0	0	0	
環境法令違反罰金額 Total Cost of Environmental Fines and Penalties	単体	円	-	-	-	-	0	
	連結	Yen	-	-	-	-	0	

※個別の注釈があるものを除き、原則、各期末日時点（決算日 2/20）または通期（2/21～翌年 2/20）の数値情報となっております。



株式会社オークワ

本社/〒641-8501 和歌山市中島185番地の3
TEL.073-425-2481(代)

<https://www.okuwa.net>



本書は、環境に配慮した
植物油インキを使用しています。



環境に配慮した
「水なし印刷」で制作しました。



古紙/リブ配合率 70% 再生紙を
使用しています。